

官民学連携による新たな都市空間創造に向けた  
人材育成に係る調査・検討業務  
報告書

令和5年3月

国土交通省 都市局



## 目次

第1部	業務の背景・目的及び概要	2
第1章	業務の背景・目的	2
第2章	業務の概要	2
第2部	地方公共団体の多数の職員を対象とした人材育成モデル事業の企画立案等	4
第1章	人材育成モデル事業の概要	4
第2章	官民学連携によるまちづくりの専門家について	6
第3章	人材育成モデル事業の参加方法について	13
第3部	地方公共団体の多数の職員を対象とした人材育成モデル事業の運営等	14
第1章	講義教材の作成及び配信等	14
第2章	課題対応及び受講者のフォローアップ等	22
第3章	交流会の運営等	25
第4部	官民学連携による新たな都市空間創造に向けた人材育成方策に係る調査・検討及びとりまとめ	29
第1章	人材育成モデル事業の効果検証方法	29
第2章	個別講義に関するアンケート調査	29
第3章	受講修了後アンケート調査	30
第4章	官民学連携による新たな都市空間創造に向けた人材育成方策の検討	47
第5部	全体総括	51

## 第1部 業務の背景・目的及び概要

### 第1章 業務の背景・目的

居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成など、都市の魅力や向上を図るためには、官民が連携してまちづくりを進めていくことが重要であり、民間まちづくり活動の担い手を発掘・育成するためには、「民」の活動を下支えする「官」側の意識醸成が不可欠である。

また、これからの時代に魅力ある持続的な都市を創生していくため、既存ストックや人のつながり・コミュニティなどの地域に存する資本を最大限活かしながら、エリア価値の向上や人間中心の居心地が良く豊かなまちの形成に官民連携により取り組んでいくことが重要である。

本業務では、官民連携によるまちづくりの考え方や、それに基づく公共空間の利活用の手法等、これからの時代に求められるアーバニストとしての素養やまちづくりの基礎的知識等について、中小都市を含めた全国の地方公共団体の職員に幅広く啓発を行うため、インターネット配信等を活用した人材育成モデル事業を通じて官の人材を発掘・育成していくことにより、官民連携による新たな都市空間創造の推進に資する取組の調査・検討を行うことを目的とした。

### 第2章 業務の概要

#### (1) 地方公共団体等の職員を対象とした人材育成モデル事業の企画立案

本業務で実施する人材育成モデル事業が、民間事業者等が実施している人材育成事業への足掛かりとなる基礎的なものであることを踏まえ、過年度に国土交通省まちづくり推進課が実施した「新たな都市空間創造スクール」を発展させる視点で以下の点に留意し企画立案を行った。

##### 1) 受講対象者

受講条件は、原則、全国の地方公共団体等の職員を対象とし、個人参加で定員400名程度とした。

##### 2) 人材育成モデル事業のカリキュラム

本業務における人材育成モデル事業は、インターネット等を活用することにより受講者の業務等に支障のない範囲で知識を習得させること、及び実践に向けた検討を行う課題を提供した。具体的には、『インターネット等を活用した講義配信と講義を踏まえた受講者による課題作成』『受講者を対象とした交流会』を実施した。

##### 3) 講義内容

都市行政、官民連携によるまちづくりの考え方や公共空間の利活用の手法等に関する基礎的な知識から実践事例を学ぶことのできる講義内容とし、これからの時代に求められるアーバニストとしての素養やまちづくりの基礎的知識等を学ぶクールと、様々なパターンの実践事例から官民連携のプロセス等を学ぶクールから構成した。

#### 4) 招聘する講義数

学識有識者を初め、民間の実践者や地方公共団体職員などによる講義を計34講義とし、過年度の「新たな都市空間創造スクール」において作成した動画も再活用した。

#### (2) 地方公共団体等の職員を対象とした人材育成モデル事業の運営

(1) を踏まえて、以下の業務を行った。

##### 1) 講師の招聘

講義収録に関する調整、ならびにインターネット等で配信する講義、交流会での講評、課題添削に関する講師への謝金・旅費等の支払いを行った。

##### 2) 各種資料及び教材の作成等

講義収録会場の確保、講義動画の収録・編集、その他各種資料及び教材（文書・映像等）の作成等を行った。なお、講義での講義資料（PowerPoint 等）の作成については講師に依頼した。

##### 3) ネットワーク環境の構築、保守等

講義配信サイトの企画・構築、ネットワーク環境の構築、講義動画等のアップロード等の保守業務を実施した。

##### 4) 交流会の会場準備等

交流会の会場準備及び設営（必要となる物品含む）、運営等を実施した。

##### 5) 受講者対応

受講募集の受付、講義配信等に関する周知、課題レポートの収集、講義動画視聴状況の確認等、受講者への対応を行った。

なお、受講者募集の周知については、国土交通省ホームページ等を通じて国土交通省まちづくり推進課にて実施した。

##### 6) 受講者のフォローアップ

メールや講義配信サイト等を活用して、受講者からの講義や課題内容、交流会等に関する質問の受付・対応を行った。また、提出された課題レポートへの対応等の受講中のフォローアップを実施した。

##### 7) 業務実施記録資料の作成

本業務に要する打ち合わせの資料、実施後の議事録の作成、また、交流会等に係る実施記録資料（文書・映像等）を作成した。

#### (3) 人材育成事業の確立に向けた調査・検討及びとりまとめ

(1) 及び (2) を踏まえ、人材育成モデル事業の効果検証を踏まえた人材育成プログラムの検討、また、プログラムの自立した運営体制・スキーム等について検討し、その結果を報告書にとりまとめた。

## 第2部 地方公共団体の多数の職員を対象とした人材育成モデル事業の企画立案等

### 第1章 人材育成モデル事業の概要

#### (1) 人材モデル事業の目的・概要

##### ① 人材育成モデル事業の目的

人中心の居心地が良く豊かなまちを実現していくため、「つくる」視点から「つかう」視点に重点をシフトし、官民連携の考え方や公共空間の活用事例を学ぶことにより、都市行政の専門性と都市生活者の視点をあわせ持つ「アーバニスト」としての素養を高め、当事者として主体的に考え実践していく公務員の育成を目指した。

##### ② 対象者

市区町村、都道府県、国の行政機関、公社の職員

##### ③ カリキュラム

人材育成モデル事業では「公共空間を活かしたまちづくり」など官民連携による取組を進める民間実践者及び地方自治体職員、大学教員等の講師によるeラーニング形式の講義（計2クール）及び交流会を実施した。

各クールの講義聴講後には講義アンケートを提示し、提出された事前課題レポートについては、講師による添削及びWebサイト内にて受講生間の共有を行った。

また、全クール終了後に受講者に最終課題レポートを課し、Webサイト内にて受講生間の共有を行った。

④ スケジュール

人材育成モデル事業については以下のスケジュールにて実施した。なお、過年度と比較し、参加申込締切りを約2週間前倒した。

図表 1 人材育成モデル事業の運営スケジュール

日付	曜日	内容
令和4年7月19日	火	スクール参加者募集開始
令和4年8月12日	金	第1次 参加申込締切（受講生決定通知・事前課題提示は随時送付）
令和4年8月22日	月	第2次 スクール参加者募集開始
令和4年8月26日	金	第1次参加申込者 事前課題レポート締切
令和4年9月5日	月	第2次 参加申込締切（受講生決定通知・事前課題提示は随時送付）
令和4年9月5日	月	第1クール①配信開始（事前レポート提出者より順次）
令和4年9月9日	金	第2次参加申込者 事前課題レポート締切
令和4年9月20日	月	第1クール②配信開始
令和4年10月3日	月	第1クール③配信開始
令和4年10月24日	月	第2クール①配信開始
令和4年10月31日	月	第2クール②配信開始
令和4年11月7日	月	第2クール③配信開始・第1クール講義アンケート締切
令和4年11月14日	月	第2クール④配信開始
令和4年11月21日	月	第2クール⑤配信開始
令和4年11月28日	月	第2クール⑥配信開始
令和4年12月5日	月	第2クール⑦配信開始・事前課題フィードバック・最終課題提示
令和4年12月12日	月	第2クール⑧配信開始
令和4年12月19日	月	第2クール⑨配信開始
令和5年2月3日	金	交流会
令和5年2月17日	金	最終課題提出・講義アンケート締切
令和5年2月24日	金	スクール受講後アンケート締切

## 第2章 官民学連携によるまちづくりの専門家について

民間の実践者を中心として、官民学連携によるまちづくりの専門家（以下「専門家」という。）を招聘した。専門家は官公庁職員を含め37名招聘した。概要については以下の通りである。今年度は新規撮影26本、再収録を3本の計29本の講義撮影を実施した。

図表 2 まちづくりの専門家及び講義の概要

		公開 日時	テーマ	講師	分	概要
第1クール	1	9月 5日	アーバニスト 魅力ある都市の創生者 たち	東京大学 大学院工学 系研究科 都市工学専攻 准教授 中島直人	60	・アーバニストとは ・これからの時代に 求められる都市専門 家像
	2	9月 5日	Sensuous City ～五感 で感じるまちの魅力～	LIFULL HOME'S 総研 所長 島原万丈	60	・従来の都市評価軸 の問題点 ・都市生活者目線の 新しい物差しの提案
	3	9月 5日	「リノベーションの発想に よる地域価値の再生」 ～持続可能な社会環境 のために～	株式会社ブルースタジ オ 専務取締役 クリエイテ ィブディレクター 大島 芳彦	60	・「つくる」から「つか う」視点のまちづくり ・「敷地に価値なし、 エリアに価値あり」の 本質と手法
	4	9月 20日	マネジメント時代のまち づくり	山口大学 大学院創成 科学研究科 准教授 宋 俊煥 (Junhwan SONG)	60	・日本のエリアマネジ メントの取組事例と 今後の方向性



	5	9月 20日	行政が変わればまちが 変わる	(一社)せんたいリノベ ーションまちづくり実行 委員会 代表理事 UR都市機構 東北まち づくり支援事務所 参与 小島博仁	30	・公民連携の必要性 と都市行政職員の志
	6	9月 20日	世界で一番住みたい街 から学ぶローカル都市 経営学	MITSU YAMAZAKI LLC 代表 横浜国立大学 客員教 授 都市計画家 山崎 満広	60	・ポートランドの住民 主体まちづくりの仕 掛け ・ローカル産業を創 出する都市づくり
	7	10月 3日	ワクワクする公共空間 づくりの挑戦	有限会社ハートビート プラン 代表取締役 泉英明	60	・まちの変化を生む 民間事業者・地域・ 行政との関係性
	8	10月 3日	まちづくりにおける官民 連携のこれから	元国土交通省大臣官 房技術審議官(都市局 担当) 渡邊浩司  国土交通省都市局まち づくり推進課 官民連携推進室企画 専門官 乃口智栄	60	・都市政策動向およ び制度 ・これからの都市行 政職員に求められる 視点
第2 クール	9	10月 24日	エリアビジョンづくり	竹原市 都市整備課 伊藤大輔	30	・行政と民間事業者 の信頼関係の構築 に向けたチャレンジ

10	10月 24日	エリアマネジメント	札幌駅前通まちづくり 株式会社 元代表取締役社長 白 鳥健志	30	・エリアマネジメント の始め方、事業内 容、実践・事務局人 材の育成
	11		12月 19日	NPO 法人大丸有エリア マネジメント協会 中嶋美年子	
12	11月 21日	リノベーションまちづくり	株式会社奏草舎取締 役 株式会社 Daisy Fresh 代表取締役 中山拓郎	60	・リノベーションまち づくりの実践 ・そうかリノベーション まちづくりにより、地 域に眠っていた人材 が発掘され、新しい ライフスタイルの創 出による取り組みに ついて
			草加市自治文化部 副部長兼産業振興課 長 高橋浩志郎		
13	11月 7日	都市アセット活用(広場)	豊田市市長公室 特命担当副主幹 栗本 光太郎	90	・広場空間の整備運 営 ・地域に眠っていた 人材の発掘と新しい ライフスタイルの創 出 ・市民プレイヤーの 人的ネットワークの 構築
			有限会社ハートビート プラン 取締役 園田聡		
14	11月 7日	都市アセット活用(ウォ ーカブル)	安城市企画部健幸 =SDGs 課 公民連携係長 前田晃 佑	30	・道路空間の活用 ・居心地が良く歩きた くなるまちなかづく りの実践
15	11月 7日		株式会社ワークヴィジ ョンズ 代表取締役 西村浩	60	

16	11月21日	都市アセット活用(公園)	国土交通省 PPP サポーター SOWINGS WORKS 代表 元国土交通省公園・緑地課長 町田誠	60	・Park-PFI 制度等の官民が連携した都市公園の整備・活用制度の概要
17	11月21日	都市アセット活用(河川)	岡崎市都市政策部都市施設課 課長 香村尚将	30	・水辺空間の活用 ・水辺を生かしたまちづくりの実践
18	11月14日		ミズベリング・プロジェクト ディレクター 建築設計事務所 Raas DESIGN 主宰 水辺総研代表取締役 岩本唯史	30	
19	11月14日	都市アセット活用(民間不動産)	空き家コンサルティング株式会社(A.C,inc) 代表取締役 金石成俊	30	・空家等の利活用を起点としたエリア価値向上を図るまちづくり ・民間による不動産活用を通じた街おこしの取組(福井市)等について
20	11月14日		株式会社テナワン 代表取締役 石田竜一	30	
21	11月28日	都市アップデート(モビリティ)	モビリティジャーナリスト 楠田悦子	60	・移動貧困社会を乗り越えるための次世代モビリティサービス

22	11月 28日	都市アップデート(まち づくり DX)	(一社)大手町・丸の 内・有楽町地区まちづく り協議会 都市政策・ガイドライン 部会長 重松真理子	30	・持続可能なエリアマ ネジメント型スマート シティと官民の役割 分担、アクションステ ップ
23	11月 28日	循環型経済	株式会社 ONE・ GLOCAL 代表取締役 鎌田由美 子	60	・ワーク・ライフ・イン テグレーションによる これからの暮らしの 考え方、地域の潜在 価値の再発見・編集 と地域共創によるサ ステイナブルなもの づくり
24	12月 5日	脱炭素・循環型社会	一般社団法人ゼロ・ウ ェイスト・ジャパン 代表 理事 一般社団法人 Green innovation 共同代表 坂野晶	60	・脱炭素社会および 循環型社会の実現 に向けたシステムの 転換、行動変容を促 すデザイン
25	12月 19日	多文化共生	NPO 法人移住者と連 帯する全国ネットワー ク事務局 崔洙連	30	・外国籍住民との共 生に向けた現状と課 題、自治体行政の可 能性

26	12月5日	福祉	社会福祉法人 麦の子会 理事長・総合施設長 北川聡子	60	・障害のある子ども・社会的養護の視点からみた現代社会の課題、多様性が尊重される社会づくり
27	12月5日	福祉(バリアフリー住環境)	横浜市総合リハビリテーションセンター 地域リハビリテーション部研究開発課主任 鈴木基恵	30	・誰もが健康な生活を送ることができる住環境づくり
28	12月19日	福祉・教育(子育て環境)	横浜市立大学国際教養学部都市学系・同大学院都市社会文化研究科 教授 三輪律江	60	・「まち保育」による地域コミュニティの醸成、こどもの成長と生活圏を意識したまちづくり
29	12月12日	組織	元四條畷市副市長 林有理	60	・新たな都市経営に向けた持続的な組織改革
30	12月12日	ビジネス創出	株式会社 URBANWORKS 代表取締役 後藤良子	30	・持続可能なまちを形成するエコシステムの構築
31	12月12日	シビックプライド(プロモーション)	流山市役所総合政策部マーケティング課 課長 河尻和佳子	60	・マーケティング視点をもったシティプロモーション、シビックプライドの醸成

32	12月 19日	シビックプライド(空間)	東京理科大学 教授 伊藤香織	60	・まちで暮らすことから考えるこれからの都市空間
33	10月 31日	コミュニティ・ディベロップメント	PIAZZA 株式会社 取締役 吉澤晶子	60	・デジタルとリアルを繋ぐ次世代の都市経営基盤としての地域コミュニティアプリの活用
34	10月 31日	コミュニティ・ディベロップメント	東邦レオ株式会社 代表取締役社長 吉川稔	60	・これからを考える場づくり コミュニティディベロップメントの実践

### 第3章 人材育成モデル事業の参加方法について

#### (1) 募集概要

- ・ 募集期間：令和4年7月19日（火）～令和4年9月5日（月）正午 必着
- ・ 募集方法：国土交通省ホームページに『令和4年度 都市を創生する公務員アーバニストスクールを開講します！』を掲載。
  
- ・ 人材育成モデル事業の募集要項：添付資料2-3-1参照

#### (2) 応募結果と選定結果

募集の結果、350件の応募があり、下記の選定基準をもとに345名を今回の受講生として選定した。

※一部公務員ではない一般からの応募があり、不選定とした。

#### <選定基準>

##### ① 受講条件の適合性

以下の全てを満たす個人であること。

(1) 受講者が、市区町村、都道府県、国の行政機関、公社の職員

(2) 受講者が、以下のすべての要件を満たす。

・新しい知識を吸収し、前向きにまちの課題を解決しようとする意欲があること。

・本スクール全カリキュラム（課題レポートの作成を含む）への参加が可能であること。

・各講義及びスクール終了後のアンケートについて回答可能であること。

※ 定員は400名程度を想定

### 第3部 地方公共団体の多数の職員を対象とした人材育成モデル事業の運営等

第2部を踏まえ、中小都市を含めた全国の地方公共団体の多数の職員に対し、官民連携によるまちづくりの考え方や、それに基づく公共空間の利活用の手法等を啓発するための人材育成モデル事業を運営した。

#### 第1章 講義教材の作成及び配信等

##### (1) 講義教材の作成

###### 講義映像の作成

本業務では、官民連携によるまちづくりの考え方や、それに基づく公共空間の利活用の手法等について、中小都市を含めた全国の地方公共団体の職員に幅広く啓発を行うため、専門家による講義を撮影し、各受講生に対しインターネットによる映像配信を行った。

##### ① 講義資料の作成

講義資料の作成については、各専門家による作成とした。なお、講義資料については、インターネット配信 Web サイトより各受講生がダウンロード可能な形式とした。

##### ② インターネット配信 Web サイトの構築

インターネット配信 Web サイトについては、以下のような構成とした。なお、各受講生の視聴状況の管理を可能とするため、管理ページの構築も合わせて実施した。講義後アンケートは別サイト (Moodle) へ誘導した。

- ・各受講生に ID 及びパスワードを付与し、ログインページを設けた。
- ・各講義動画のページに視聴完了が確認できるよう「視聴済み」ボタンを設けた。
- ・講義資料には「講義動画視聴」ページからダウンロードできる形式とした。
- ・受講生から提出された課題及び提出課題に対する講師からの講評を受講生間で共有するため、「課題一覧」ページを設けダウンロードできる形式とした。
- ・受講生からの質問を受けつけるため、「質問投稿フォーム」ページを設けた。また、質問内容を共有するため、「Q&A」ページを設けた。
- ・主催側にてアクセス可能な管理ページを設け、各受講生の動画視聴状況が把握可能な形式とした。





図表 3 配信 Web サイトの構成とログインページ



図表 4 配信 Web サイトのトップページ

図表 5 配信 Web サイトの講義視聴ページ

図表 6 配信 Web サイトの課題閲覧ページ

### 課題DLページ

THEME DOWNLOAD

都市を創生する公務員アーバニストスクールの他の受講者の課題資料が閲覧できます。

**最終課題:「まち」の課題のまとめと自身の自己分析 テーマ**

講義を通して得られた知見や事前課題への講師陣によるアドバイスを踏まえ、まちの課題と、今のご自身のアーバニストとしての目標設定を基盤にまとめてください。また、講義やフィードバックを通して、最初に設定した行動目標に変化は生まれましたか。変化や目標がより明確になった内容について、自己評価を行ってください。

[令和4年度\\_最終課題説明.pdf](#)

提出レポート一覧

1-02_山梨県甲府市	<a href="#">ダウンロード</a>	1-04_愛知県春日井市高蔵寺まちづくり	<a href="#">ダウンロード</a>
1-05_埼玉県戸田市	<a href="#">ダウンロード</a>	1-07_山梨県甲府市	<a href="#">ダウンロード</a>
1-09_国土交通省	<a href="#">ダウンロード</a>	1-10_文化庁	<a href="#">ダウンロード</a>

図表 7 配信 Web サイトの課題ダウンロードページ



### 質問投稿フォーム

FORM

講師へ質問がある場合は、下記の投稿フォームをご利用ください。

ID	100-01
名前(漢字)	<input type="text"/>
名前(ふりがな)	<input type="text"/>
メールアドレス	<input type="text"/>
メールアドレス(確認用)	<input type="text"/>
講師名	講師を選択してください
質問内容	<input type="text"/>

図表 8 配信 Web サイトの質問投稿フォームページ

③ 課題提出専用ページ

今年度、受講生の人数が多く個別でのメール提出があった場合の課題の受領が非常に難しいと考えられたため、課題の提出を LMS (Learning Management System 学習管理システム) Moodle を用いて実施した。Moodle は多くの大学でも用いられている LMS である。これにより、受講生からの課題提出の受領、事前課題への講師からのフィードバック、受講生用の交流掲示板、講義後アンケートの収集、その他情報発信を行った。なお、ID と P W は講義受講サイトと合わせた。



The image shows a login page for Moodle. The title is '都市を創生する公務員アーバニストスクール にログインする'. There are two input fields: 'ユーザ名' (Username) and 'パスワード' (Password). Below them is a blue 'ログイン' (Login) button. A link 'パスワードを忘れましたか?' (Forgot your password?) is visible. Below a horizontal line, there is a section titled 'いくつかのコースにはゲストアクセスできます' (Guest access is available for some courses) with a button 'ゲストとしてログインする' (Login as guest). At the bottom, there is a language selector '日本語 (ja) v' and a 'クッキー通知' (Cookie notice) button.

図表 9 ログインページ



## 令和4年度 都市を創生する公務員アーバニストスクール

コース 設定 参加者 評定 レポート さらに▼

### ▼ 掲示板

すべてを折りたたむ

フォーラム

事務局からのお知らせ

完了マークする

こちらに事務局からのお知らせを掲載いたします。

フォーラム

受講生交流用フォーラム

完了マークする

こちらのフォーラムは受講生の方の自由な交流用にご利用いただけます。

例えば、ご自身の自治体で企画しているイベントについての告知・宣伝や、課題についての悩み相談・動画の感想のコメントなどにご利用いただけます。

また、動画に関連してこんな面白い活動があったのでぜひ他の受講生にも知ってもらいたい、などといった内容もぜひシェアしてください。

受講生の方がディスカッショントピックを立てられますので、自由にご利用いただけます。

特定の方が傷つくようなコメントや、自治体への批判などは避けましょう。

図表 10 コースページ

### ▼ 事前課題提出

課題

課題：「まち」の課題と自身の目標（1次募集の8月12日までに受講が決定した方）

やるべきこと: 提出する

開始: 2022年 07月 26日(火曜日) 00:00

期限: 2022年 08月 27日(土曜日) 00:00

1次募集（8月12日までにスクール受講が決定した方）向けの事前課題提出ページです。

※提出期限が過ぎても諦めずにご提出ください。

各受講生が生活する都市・地域における課題（生活する都市・地域の課題となる場所等の写真を必ず添付）と、都市生活者としてのこれからの自身の行動変容に関する目標について設定してください。

こちらのレポートは、提出時点で受講生向けに公開されることはありません。また、公開は受講生に限定して行います。

※下の表の提出コメント欄に、ご自身が記載されたレポートと内容に近いテーマを下から選んで、入力して下さい。※複数選択可。

エリアビジョンづくり, エリアマネジメント, リノベーションまちづくり, 広場, 街路, 公園, 河川, 民間不動産, 交通・モビリティ, DX, 循環型経済, 環境, 多文化共生, 福祉, バリアフリー, 子育て, ビジネス創出, プロモーション, 景観デザイン, コミュニティ・ディベロップメント, その他

※↑提出コメントは必ず記載してください。

※提出ファイルはPDFをお願いします。ワードファイルでアップロードした場合、一度削除してPDFにしたものを再提出してください。

図表 11 事前課題提出ページ

フィードバック  
講義 1：アーバニスト 魅力ある都市の創生者たち

やるべきこと: フィードバックを送信する

---

開始済み: 2022年 09月 5日(月曜日) 09:00

東京大学 大学院工学系研究科  
都市工学専攻 准教授 中島 直人

- ・アーバニストとは
- ・これからの時代に求められる都市専門家像

フィードバック  
講義 2：Sensuous City ～五感で感じるまちの魅力～

やるべきこと: フィードバックを送信する

---

開始済み: 2022年 09月 5日(月曜日) 09:00

LIFULL HOME'S総研  
所長 島原万丈

- ・従来の都市評価軸の問題点
- ・都市生活者目線の新しい物差しの提案

図表 12 講義後アンケート選択ページ

▼ 最終課題提出

課題  
課題：「まち」の課題のまとめと自身の自己分析

✓完了: 閲覧する  
やるべきこと: 提出する

---

開始: 2022年 12月 6日(火曜日) 00:00  
期限: 2023年 02月 17日(金曜日) 23:59

講義を通して得られた知見や事前課題への講師陣によるアドバイスを踏まえ、まちの課題と、今のご自身のアーバニストとしての目標設定を簡潔にまとめてください。また、講義やフィードバックを通して、最初に設定した行動目標に変化は生まれ了吗か。変化や目標がより明確になった内容について、自己評価を行ってください。

レポート作成にあたり、写真・図表等は、必要に応じて添付してください。

ファイル  
スクール修了条件について

完了マークする

---

スクールの修了条件に到達した方には、修了証をご送付いたします。  
加えて、第2クールの視聴状況に応じて、3つの賞をご用意いたしました。  
ぜひ、褒賞を目指して講義動画をたくさん視聴しましょう！  
褒賞条件に到達した方には修了証と褒賞両方をご送付いたします。  
詳細は添付資料をご確認ください。

図表 13 最終課題提出ページ

## (2) 講義教材の配信

講義教材及びその受講到達レベルの検証を目的とした課題提示については、以下のスケジュールにて案内を行った。

図表 14 講義配信のスケジュール

No.	日付	曜日	クールテーマ	配信講義数
第1クール	令和4年9月5日	月	概論	3
	令和4年9月20日	月		3
	令和4年10月3日	月		2
第2クール	令和4年10月24日	月	空間創造・サステイナブル・価値創造	2
	令和4年10月31日	月		2
	令和4年11月7日	月		3
	令和4年11月14日	月		3
	令和4年11月21日	月		3
	令和4年11月28日	月		2
	令和4年12月5日	月		3
	令和4年12月12日	月		4
	令和4年12月19日	月		4

## 第2章 課題対応及び受講者のフォローアップ等

### (1) 課題の概要

本事業の経験を通じて、事前に設定した到達レベルについて検証を行うため、各クールにて受講生へ課題を提示した。本カリキュラムにおける課題の概要については図表15とおおりである。

なお、課題設定の考え方は次のとおりとした。

- ・個人ワークを主とした課題とした。
- ・業務内容にとどまらず、都市生活者としての視点を重視し、アーバニストとしてのこれからの自身の行動変容を問うものとした。
- ・講義を通じて事前課題をブラッシュアップさせ、最終課題につなげた。

図表 15 課題の概要及びスケジュール

No.	提出期間	課題テーマ/概要	作業形式	ファイル形式
事前課題	受講決定 ～8月26日 ※追加募集分 は9月9日	<「まち」の課題と自身の目標 > 各受講生が生活する都市・地域における課題(レポート2,000字以上、生活する都市・地域の課題となる場所等の写真を必ずレポート内に添付)と都市生活者として PDF) のこれからの自身の行動変容に関する目標を設定	個人ワーク	Word (PDF 提出)
最終課題	12月5日 ～2月17日	<「まち」の課題のまとめと自身の自己分析 > 講義を通して得られる知見や講師陣によるアドバイスを踏まえ、事前課題として提出したレポートをブラッシュアップし、まとめる。(レポート1000字程度、生活する都市・地域の課題となる場所等の写真を必ずレポート内に添付)また、事前に設定した自身の行動変容の目標に対する自己評価を行う。	個人ワーク	Word (PDF 提出)

- ・各課題の詳細：添付資料3-2-1参照

### (2) 受講者のフィードバックについて

令和4年度都市を創生する公務員アーバニストスクールでは、各受講生にLMS上でそれぞれ添削講師よりフィードバックコメントを実施した。事前課題のフィードバック対応の内容は以下の通りである。



① 個人ワークのフィードバック（事前課題）

提出されたレポートの全数に対して、講師よりコメントを入力し、最終課題に向けたアドバイスやプロジェクトの取り組み方に対するフィードバックを実施した。

② 交流会での講師総評

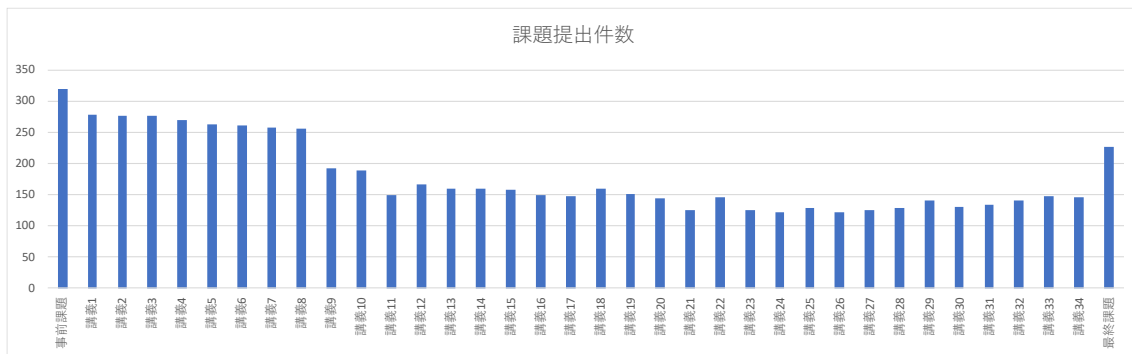
令和5年2月3日に実施した交流会にて、添削講師を含めて事前課題にとどまらず交流会の内容を踏まえた講師総評を実施した。

- ・ 課題フィードバック対応講師の紹介：添付資料3-2-2参照
- ・ 課題のフィードバックスケジュール：添付資料3-2-3参照

### (3) 課題の対応状況

昨年度の「新たな都市空間創造スクール」まではグループでの参加だったため、各受講生がグループに不利にならないよう課題提出について連帯責任のモチベーションがあったが、今回は個人参加のスクールとしたため、課題提出に対して本人のモチベーションの維持力に頼ることとなった。

課題の提出数については以下の通り。



図表 16 受講生の課題レポート提出状況

### (4) 課題の共有

事前課題、最終課題については、動画配信 Web サイトにて提出物の共有を行った。なお、共有された課題については、受講生間のみ閲覧可能な環境とした。

### 第3章 交流会の運営等

#### (1) 研修概要

各受講生の都市空間への検討に対する意識醸成及び受講者の交流を図ることを目的とし、「都市を創生する公務員アーバニストスクール」の交流会を以下の通り開催した。今年度の交流会では、世界的に大流行している新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対面/オンラインのハイブリット形式での開催を実施した。概要及びスケジュールについては以下の通りである。

- ・ 日 時：令和5年2月3日（金）15時00分～18時00分
- ・ 開催形式：現地およびオンライン
- ・ 配信会場：丸の内二重橋ビルディング 16階
- ・ 交流会の式次第等：添付資料3-3-1参照

#### ① 交流会の概要

受講生による自治体PR発表（各3分程度の発表、計16名）及びまちづくり専門家（計4名）による講評およびパネルディスカッション、質疑応答を実施した。

- ・ グループディスカッション発表内容要旨：「今後の具体アクションの全体共有」

登壇者	内容要旨
Aグループ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 城北公園パーク PFI 事業を担当。その際に住民訴訟につながってしまったが、その原因は自分たち行政側が事業の魅力を市民の方々に上手く伝えられなかったことにあると考えている。</li><li>・ 現在は植物園の設立を進めているが、同様に市民の方々への発信と合意形成が課題となっている。その具体的なアクションとして、デジタル技術の活用やイベントでのPR活動を進める。</li></ul>
Bグループ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 人を中心にしたまちづくりを目標にしているメンバーが多かった中で、今ある資産を有効活用するという目標が挙げられた。</li><li>・ そのために、人を中心としたまちづくりを目指して、地域に飛び出して地域に溶け込んでいきたい。</li></ul>

Cグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 町内部署や行政、住民の方々の巻き込みやソフト面でのまちづくりをいかに進めていくかが共通のテーマとして挙げられた。また、現在都市計画に関わっていない方も将来的に都市計画に携わるという目標を持っている方もいた。</li> <li>▪ 上記の目標に対して、実際に行動することが大事であるという結論に至った。既に他の職員の方々とチームを編成しイベントを開催しているという方もおり、そういった行動が大事になる。</li> </ul>
Dグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 地域の人たちと交流し意見を聞きながら、キーパーソンとつながりを持ちたいという話がメンバーで共通していた。</li> <li>▪ そのために地域の中に飛び込めるファーストペンギンになること、また誰かが行動を起こしたときにそれに続くセカンドペンギンとして支援できる人になるという目標が出た。そのために、地域の人と会い、交流チームに参加していきたい。</li> <li>▪ 受講生の中で失敗談などの共有もできたら良い。</li> </ul>
Eグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 動画でも地元の仲間が見つからないという話があったが、まちづくりのための仲間をどう探せばよいかという悩みがメンバーに共通してあった。</li> <li>▪ 仲間を増やすためにはイベントや研修、今回のような交流会を積極的に開催・参加し、つながりを作っていくことが重要。</li> </ul>
Fグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ まちに繰り出すことを大きな目標としていたメンバーが多かった。地域の人と積極的に交流し、地域の人同士をつなげるためには、業務とプライベートの境目をなくしていこうという話が出た。</li> <li>▪ まちの担い手の人々と業務とプライベートの双方で関わる中で、マルシェの一角で出店活動を実施し、地域の人々との交流につなげた。</li> </ul>
Gグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 既に NPO を立ち上げた等独自のまちづくりの活動を進めている方と将来的にまちづくりに携わりたいという方々が交流できたチームであった。</li> <li>▪ 町内の仕事の分担が進む中でスペシャリストはいるが、全体を俯瞰できる人材が不足しているため、各部署に横串を刺すジェネラリストになることが大事。</li> </ul>

Hグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 既に様々なまちづくりの取り組みをされている方が多かったチームである。</li> <li>▪ 今後の課題としては町内の仲間づくりが挙がり、どのように町内で仲間を作っていくかという点について議論する中で、最終的には、まず今回のアーバニストスクール内の仲間とつながることが大事という結論に至った。</li> <li>▪ また、公務員の枠を外れ、まちに自ら出ていくことも大事である。</li> </ul>
Iグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 様々な地域からきた各メンバーの取り組みについて共有した中で、持続可能なまちづくりや市民とのかかわり方が課題として挙げた。</li> <li>▪ ただ単に市民の皆さんがやりたいことを支援するだけではなく、自治体としてある程度方向性を決めてコーディネートしていきたい。</li> </ul>
Jグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 1年目の地域採用職員と管理職メンバーがいるチームであった。</li> <li>▪ まちのことを知る、生活者の視点を学ぶという目標が多かった。今後のアクションとしては、管理職のメンバーは、若い人がまちにでていくためのバックアップ、一方で若手職員のメンバーはまちに積極的に出て行きたい。今回の交流会のネットワークを活かして、管理職層と若いメンバーの交流を深めたいと考える。</li> </ul>

- 講師講評の要旨：受講生発表の感想・受講生に目指していただきたいアーバニスト像

登壇者	内容要旨
豊田市市長公室 特命担当副主幹 栗本 光太郎 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義動画の中で官民連携と官内連携のプロセスを感じてもらいたいという意図があった。官民連携については、行政は民間から「失敗するようなことはやらない」や「実際に行動を起こさない」というイメージを持たれることが多いと思う。行政での協議内容を民間の方に逐一報告し、相談したりする中でこちらのやる気を表すことが大事。また、行政もある程度のリスクを取ることで、民間の方々からの信頼を得ることも必要となる。</li> </ul>
札幌駅前通まちづくり株式会社 元 代表取締役社長 白鳥 健志 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートについて、地域課題のまとめ方は素晴らしいと考える一方で、どうすればいいのかという転用課題となると言葉が濁ってしまう傾向が見て取れた。講師の方々からヒントを頂いたり、受講生の中で意見を出し合うったりすることが手助けになる。</li> <li>民から官に行くのは難しいが、官から民にでていくことはできるため、行政を辞めてからも官と民と通訳としてまちづくりに積極的にかかわっていただきたい。</li> </ul>
元四条畷市副市長 林・小野 有理 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々事業を進める中で様々な困難があると思うが、その不満を言うのではなく、それをどう乗り越えていけるかについてお互い意見を出し合っている点が素晴らしいと感じた。</li> <li>四条畷副市長時代にも都市計画・政策系の部長3名をこのスクールに参加していただいたが、それによって彼らのマインドに大きく変化があり、様々な事例ができるようになった。</li> <li>町内の広がり方に目を向け、まちづくりに関心がない人たちに役割の言語化をして与えていくことが重要だが、今回の交流会をそのための仲間づくりの場としていただきたい。</li> </ul>
国土交通省都市局 まちづくり推進課 官民連携推進室長 山田 大輔 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスカッションでは、活発に意見交換がされていて受講生の皆さんの志の高さを感じた。</li> <li>レポートの課題であった「個人の行動変容」について期待していたが、全体的に、自分のまちの都市計画や行政的な仕事の部分が多かったため、残り1カ月の期間で生活者としての行動をどう変えていきたいかについてレポートに含んでいただきたい。</li> </ul>

## 第4部 官民学連携による新たな都市空間創造に向けた人材育成方策に係る調査・検討及びとりまとめ

第2部及び第3部を踏まえ、人材育成モデル事業の効果検証及びフォローアップを行うことを通じ、官民学連携による新たな都市空間創造に向けた人材育成方策の調査・検討を行った。

### 第1章 人材育成モデル事業の効果検証方法

都市を創生する公務員アーバニストスクールにおける人材育成方策を調査・検討を行うために、交流会終了後及び本プログラム受講終了後に任意のアンケートにて調査を実施した。アンケート調査は、本プログラム受講後の理解度や、学びが現場で生かせる内容であったか等、スクール全体の満足度や今後のモチベーションについて調査し評価することで、今年度の課題等の把握、及び次年度以降等に活かせる効果的なカリキュラムの検討を行うことを目的とした。それだけでなく、今後このようなまちづくり人材育成事業が独立採算での運営可能性を検証するための質問項目についても合わせて設定した。

今後の人材育成方策を検討する上で、アンケート結果をもとに検証を行った項目は以下の通りである。

- (1) 本プログラム全体の満足度
- (2) 本プログラムによる育成効果・学習到達度
- (3) 受講生間におけるコミュニケーション活性化への影響
- (4) 継続学習に対するモチベーション
- (5) 行動変容に関する意識の変化
- (6) 参加方式の比較（グループ参加と個人参加）

### 第2章 個別講義に関するアンケート調査

#### (1) 個別講義に関するアンケート調査の概要

受講生各個人に対し各配信講義についての関心度及び理解度について、各配信ツールにてアンケートを実施した。

#### (2) 個別講義に関するアンケート結果

令和4年度「都市を創生する公務員アーバニストスクール」個別講義に関するアンケートの結果、関心度、理解度ともに受講生からの評価は高かった。なお、結果の詳細については非公開とした。

### 第3章 受講終了後アンケート調査

#### (1) 受講終了後アンケート調査の概要

受講終了後アンケートについては全5部構成とし、第1章にて設定した検証項目について質問を行った。全体構成及び質問の概要については以下の通りである。

- ① 全般：本プログラムの学習量・難易度・期間・受講環境等に対する満足度  
チームビルディング及びグループコミュニケーション  
プログラム受講費用負担の可否
- ② 個別講義：学習内容を活かした課題・提案プロジェクトへのアウトプット
- ③ 課題添削：講師からの課題フィードバックによる、受講生の学習意欲やモチベーション向上への寄与、グループディスカッションの効果
- ④ 最終発表：最終講評を受けての感想と今後の継続学習  
提案プロジェクト実現の見込みと実現へ向けてのモチベーション
- ⑤ 総括：本プログラムの感想と今後への要望等

- ・ 令和4年度 スクール受講後アンケート項目：添付資料4-3-1参照

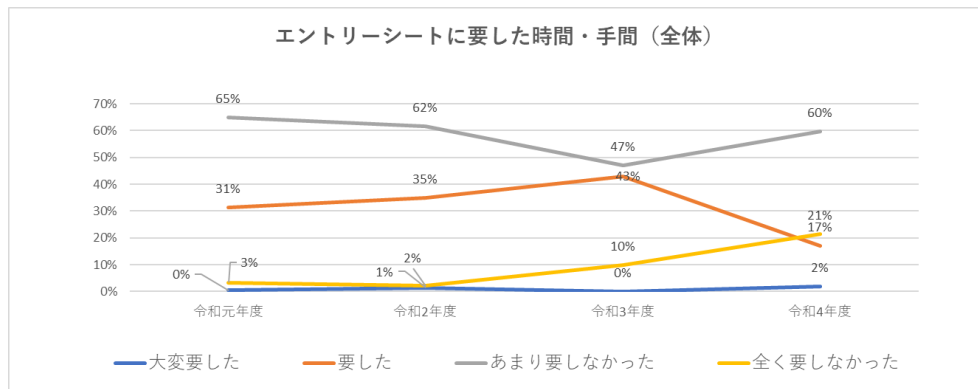
#### (2) アンケート調査の結果

事前準備・エントリー手続き

本プログラムの参加にあたっては、昨年度まではグループでの参加を条件とし、部長級クラスの参加も必須としたが、今年度より個人別での参加を募集し、エントリー方法もエクセルシートでの提出ではなく、アンケートフォームへの入力とした。

##### ① エントリーシートに要した時間・手間

受講申し込みにあたってのエントリーに要した時間及び手間については、昨年度と比べエリア設定シートなどの作成が不要となったため「全く要しなかった」「あまり要しなかった」が増加し、「要した」が減少した。



図表 17 エントリーシートに要した時間及び手間

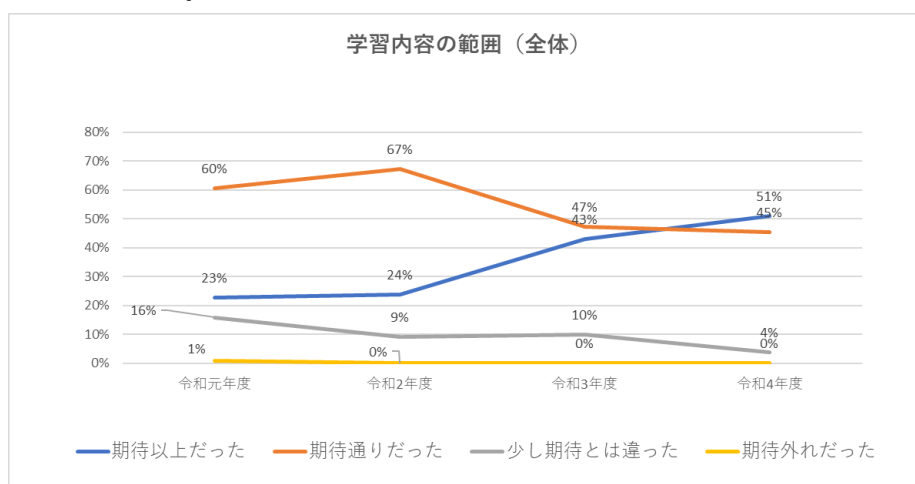


## ② プログラムの学習内容の範囲・難易度・量

本プログラムの学習コンテンツ内容の範囲や難易度、講義数についての質問を設定した。

### (2-1) 学習内容の範囲

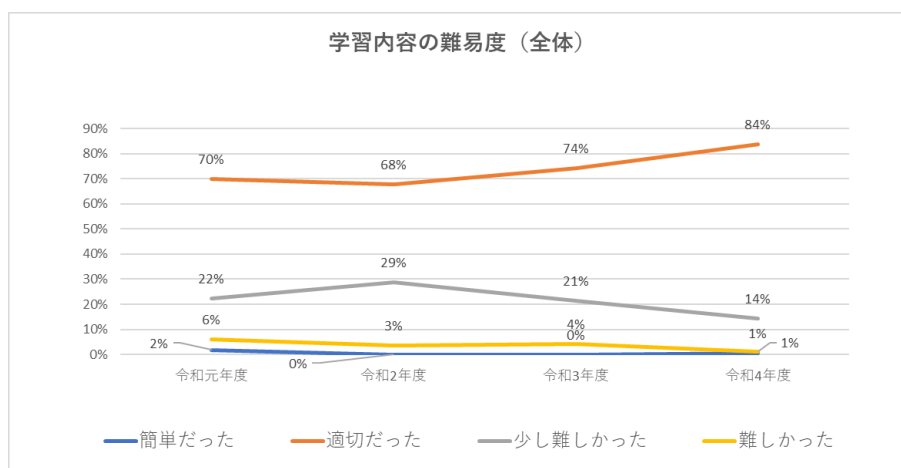
今回設定した学習内容の分野・範囲については、学習内容の範囲については、約9割の受講生が「期待以上だった」「期待通りだった」という回答を得ており、中でも「期待以上だった」が昨年度よりも上昇している。その理由と考えられる意見として、「無料のスクールとは思えないほど豪華な講師陣だった」などの意見もあり、受講生が望んでいたプログラムの提供を実施できたと考えられる。



図表 18 学習内容の範囲

### (2-2) 学習内容の難易度

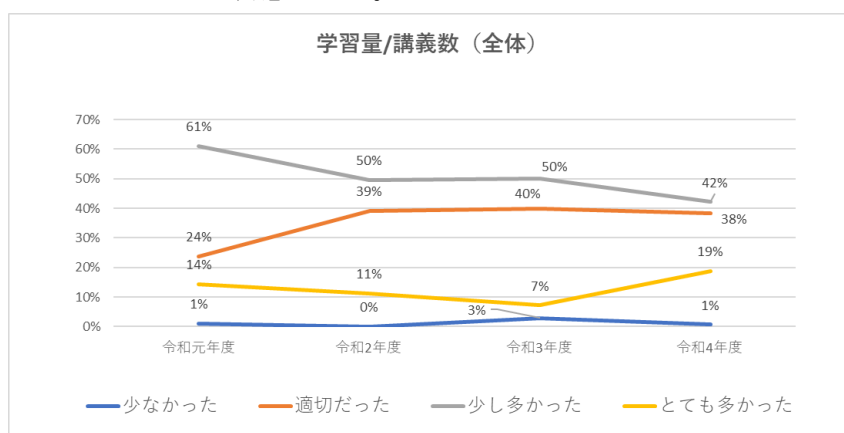
学習内容の難易度については、「適切だった」と回答している受講生が増加しており、難易度についても大部分の受講生の期待に応えたものだったと考えられる。ただし、一部「少し難しかった」「難しかった」と回答しており、一部の受講生にとっては難しい内容も含まれていることが見受けられた。なお、全体的な傾向は過年度と同様である。



図表 19 学習内容の難易度

### (2-3) プログラムの学習量

学習量については、適切だったと回答している受講生は昨年度と割合が変わらない一方、とても多かったと回答している受講生が増加した。昨年の講義数から10講義以上増加しているの、全講義を視聴するとなると多く感じたと思われる。ただし、昨年度と比べグループワークなどの課題量は大幅に減少している点にも留意したい。



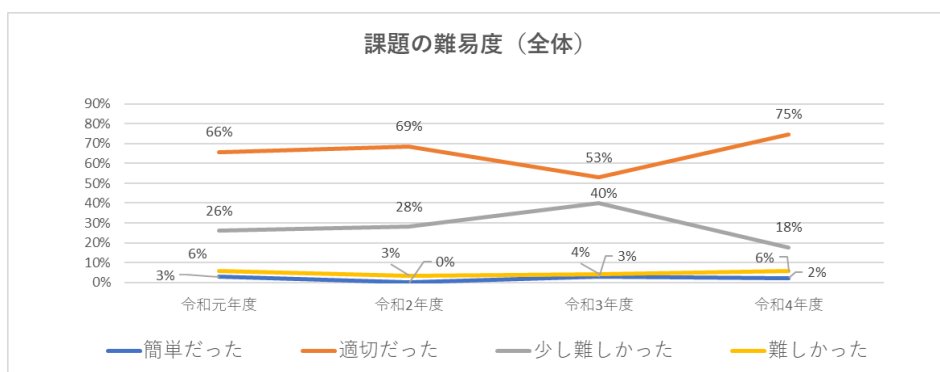
図表 20 学習量について

### プログラムの課題の難易度・量・期限

受講生に対し各クールに提示した課題についての質問を設けた。

#### (2-4) 課題の難易度

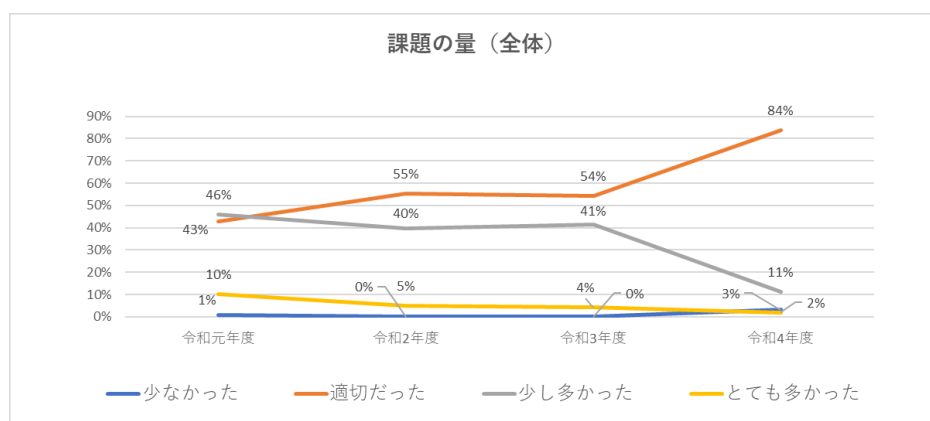
課題の難易度については、適切だったと回答した受講生が増加したものの、簡単だったと回答した受講生については横ばいだった。課題に対してそれぞれが思考深め、真剣に取り組んでいたものと思われる。



図表 21 課題の難易度

### (2-5)課題の量

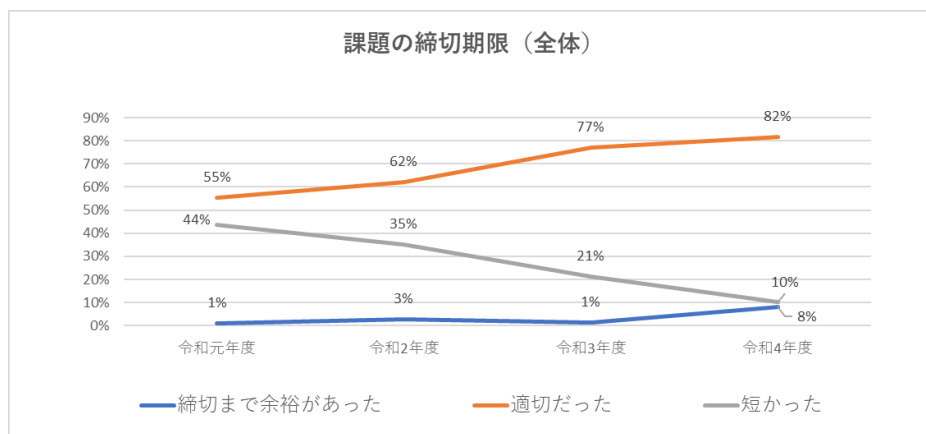
課題の量については多くの受講生が「適切だった」と回答した。昨年度より個人ワークが減少し、グループで取り組む課題もなかったことから受講生としては量的な負担は低かったものと思われる。



図表 22 課題の量

### (2-6)課題の締切期限

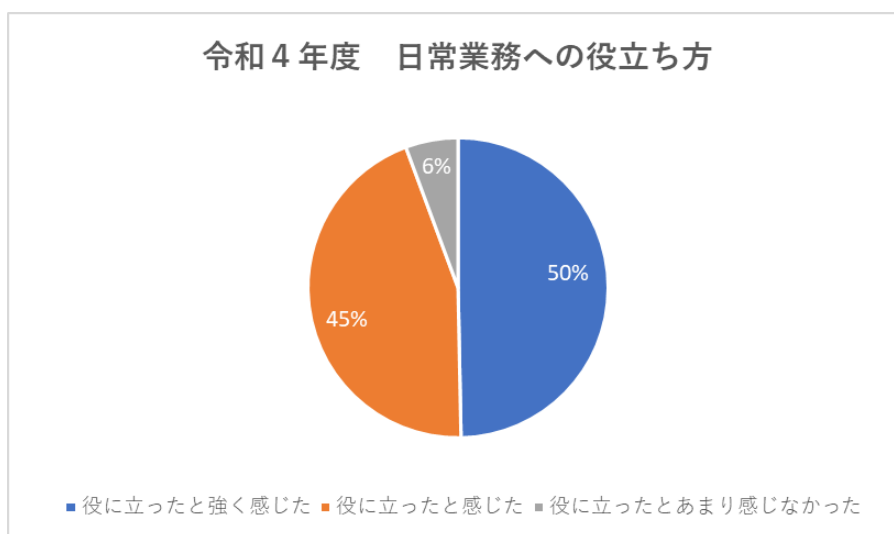
課題提出の締切期限については、適切だと感じた受講生が増加している。事前課題の提出期限は応募時期にもよるが、2～4週間程度、最終課題については1ヶ月半ほどの期間をとった。締切期限の設定については特段問題がなかったものと考えられる。



図表 23 課題の締切期限

(2-7) 日常的な業務等に役立ったかどうか

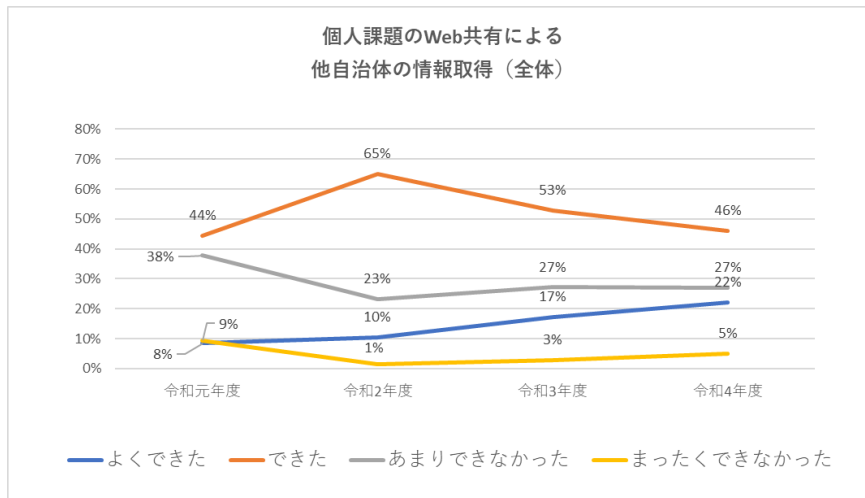
受講により日常的な業務等において役立ったかどうかの質問については、95%の受講生が役に立ったと感じている。「さまざまな知見に触れて視野が広がった」「本や身近な研修では気づくことのできない多くの事例や心構えなどが参考になった」などの意見があった。



図表 24 日常的な業務等への影響

(2-8) 個人課題の Web 共有による他自治体の情報取得

事前課題の Web 上での共有については、情報取得が「できた」「よくできた」と回答している受講生が約70%を占めている。あまりできなかったと回答した受講生については、「業務が忙しく、他の人のレポートを読むまで手が回らなかった」との回答があった。



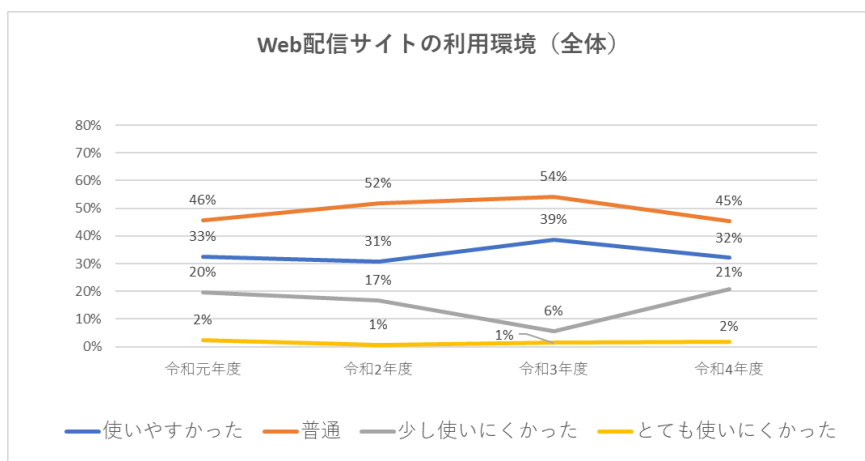
図表 25 個人課題の Web 共有による他自治体の情報取得

③ プログラムの学習環境

本プログラムは Web サイトを用いた動画配信による受講を実施したため、その学習環境に対する質問を設けた。

(3-1) Web 配信サイトの利用環境

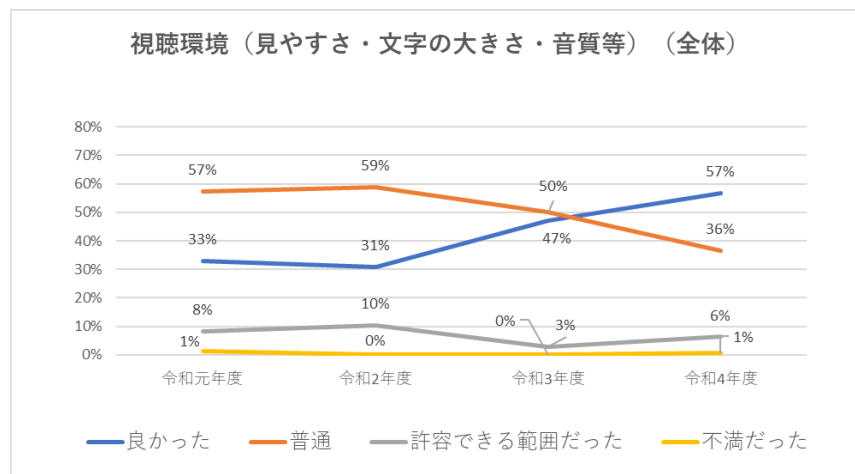
Web 配信サイトの利用環境については、少し使いにくかったとの回答が少々増加している。今年度から受講生の大幅増への対応で、動画受講サイトとは別に課題提出サイトを設け、課題の受領管理をする必要があったため、ログインの手間がかかったことなどが理由として考えられる。過年度同様、職場でのインターネット環境やセキュリティの問題で、職場 PC での動画再生に問題が生じた意見も見受けられた。職場のセキュリティ外の端末利用をアドバイスしたところ、全てのケースで問題は解決が見られた。



図表 26 Web 配信サイトの利用環境

### (3-2) 視聴環境（見やすさ・文字の大きさ・音質等）

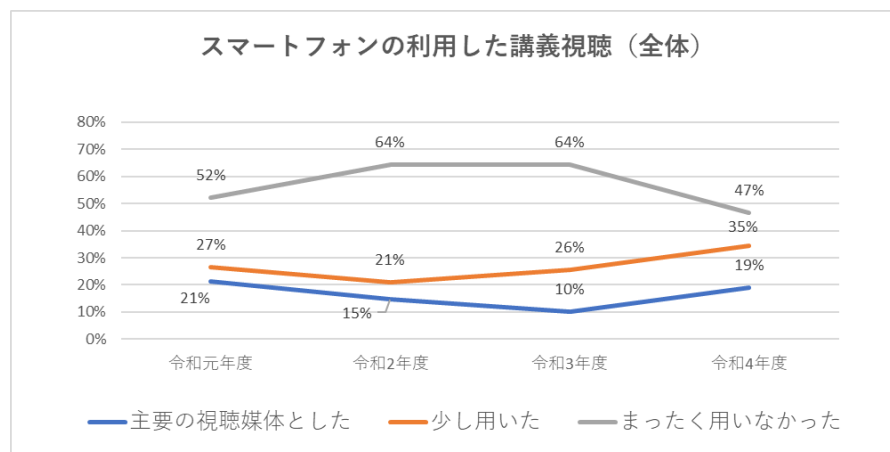
動画の視聴環境（品質）については、ほぼ全ての受講生が「良かった」「普通」と回答しており、昨年度よりも良い結果となった。



図表 27 視聴環境（見やすさ・文字の大きさ・音質等）

### (3-3) スマートフォンを利用した講義視聴

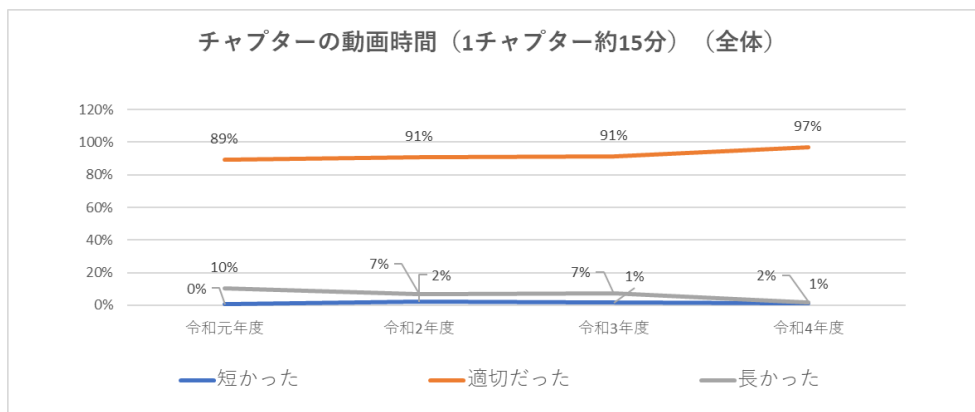
動画視聴に際してのスマートフォンの利用については、半分程度が利用したと回答した。昨年度より増加傾向であるが、個人受講のため自宅での視聴をしている受講生が多かったためではないかと考えられる。



図表 28 スマートフォンの利用した講義視聴

### (3-4) チャプターの動画時間（1チャプター約15分）

各講義動画については、今回約15分ごとにチャプターを設定し、約9割の受講生がチャプターの区切りの長さについて「適切だった」と回答した。昨年度と傾向は変わらず、15分という時間設定についても適切であると考えられる。

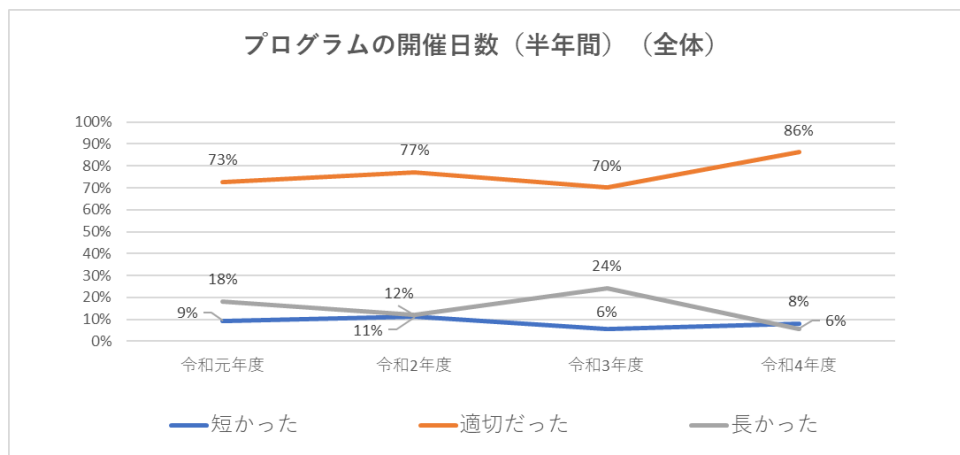


図表 29 CHAPTERの動画時間 (1 CHAPTER約 15分)

④ プログラムの開催時期・期間

(4-1) プログラムの開催期間

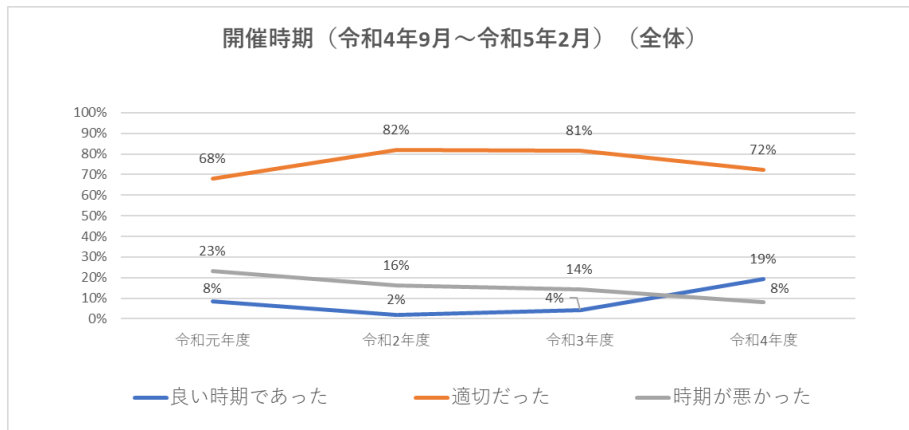
本プログラムの開催期間については、9割の受講生が「適切であった」と回答しており、昨年度も同様の傾向であることから、開催期間についてはおおよそ問題がなかったものと考えられる。



図表 30 プログラムの開催期間

(4-2) 開催時期 (令和4年9月～令和5年2月)

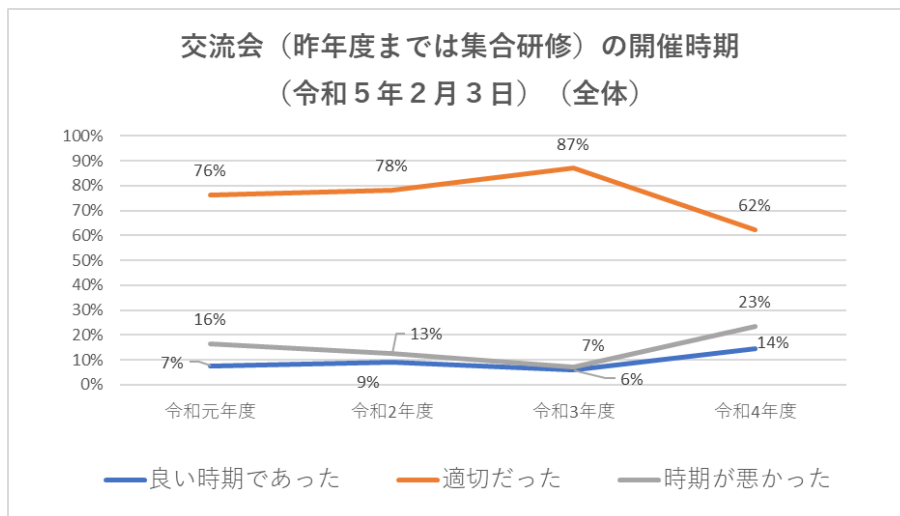
本プログラムの開催時期については、9割の受講生が「適切であった」と回答している。しかし、約1割の受講生が「時期が悪かった」と回答しており、「講義数が多いのももう少し早い時期から開始できた方がいいかもしれない」などの意見も見受けられた。



図表 31 開催時期（令和4年9月～令和5年2月）

(4-3) 交流会の開催時期（令和5年2月3日（金））

交流会の開催時期については、約8割の受講生が「良い時期であった」「適切であった」と回答しているものの、「業務が忙しい時期なので土日開催も検討してほしい」「スクール内での交流・コミュニケーション活性化のためにもっと早い時期に開催してほしい」「雪国からの降雪量が多い時期の参加は難しい」などの意見があった。



図表 32 交流会の開催時期（令和5年2月3日（金））

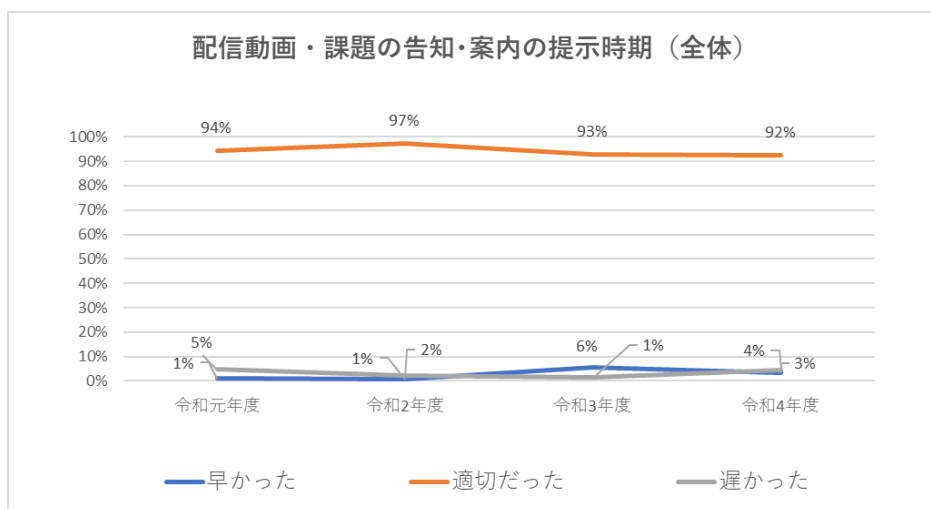
⑤ 主催者及び事務局の対応

スクールの主催側（事務局）の対応に関する感想についての質問を設定した。

(5-1) 配信動画・課題の告知・案内の提示時期

配信動画・課題の告知・案内の提示時期は、95%の受講生が「早かった」「適切だった」と回答していることから、提示時期については問題がなかったと考えられる。

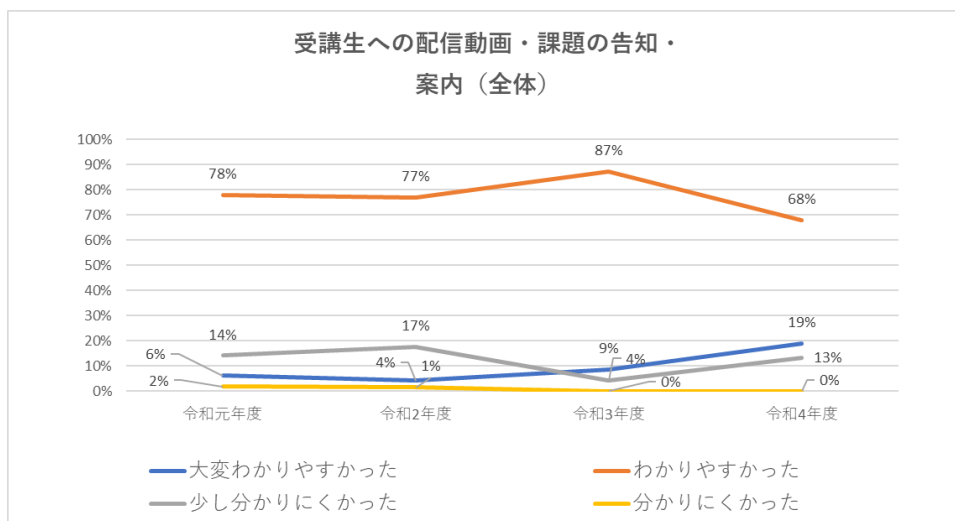




図表 33 配信動画・課題の告知・案内の提示時期

### (5-2) 受講生への配信動画・課題の告知・案内

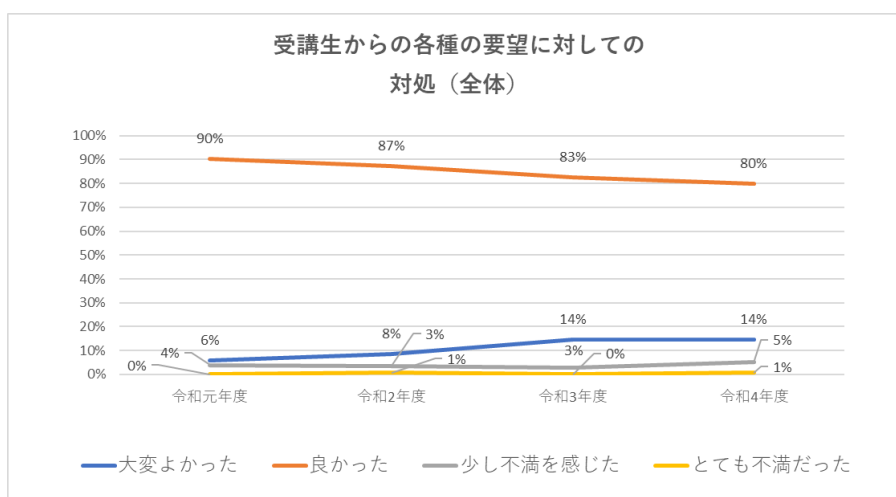
受講生への告知・案内については、86%の受講生が「大変わかりやすかった」「わかりやすかった」と回答している。メール告知が回数多かつたため、受講生の「応援メッセージが度々掲載されていてよかった」という意見がある一方、「講義数も多く案内が多かつたため、知りたかつた案内が埋もれてしまつた」などの意見もあつた。



図表 34 受講生への配信動画・課題の告知・案内

### (5-3) 受講生からの各種の要望に対しての対処

プログラム運営中の受講生からの各種の要望に対しての対処については、ほぼ全ての受講生が「大変良かつた」「良かつた」と回答している。事務局の所感としては今年度は特に受講生からの要望メール等は少なかつたと感じた。



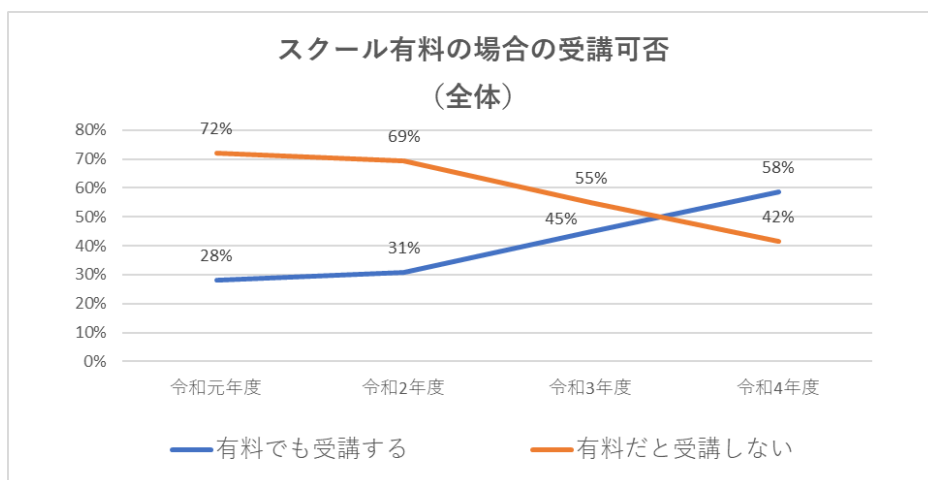
図表 35 受講生からの各種の要望に対する対処

⑥ スクールの受講費用負担

本プログラムは地方公共団体の多数の職員を対象とした人材育成モデル事業の実施であったため、受講生から受講料を徴収していない。しかしながら、今後については同様のプログラムを実施するにあたり持続可能な事業として運営していく姿が望ましいと考えられる。以上より、スクールの受講費用負担に関する意見についての質問を設けた。

(6-1) スクール有料の場合の受講可否

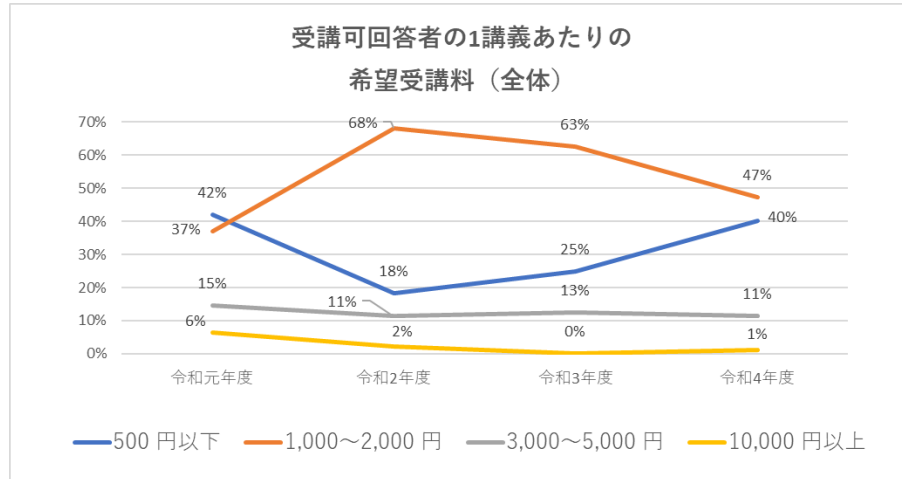
今回スクールを有料で実施するとした場合についての受講可否について尋ねたところ、有料でも受講する受講生と有料の場合受講しない受講生の割合が逆転する結果となった。今年度の受講生は所属課の方針ではなく、個人の意思で参加している方も多いため、学びに対する自己投資モチベーションが高いことが想像できる。



図表 36 スクール有料の場合の受講可否

(6-2) 「有料でも受講する」と回答した受講生の1講義あたりの希望受講料

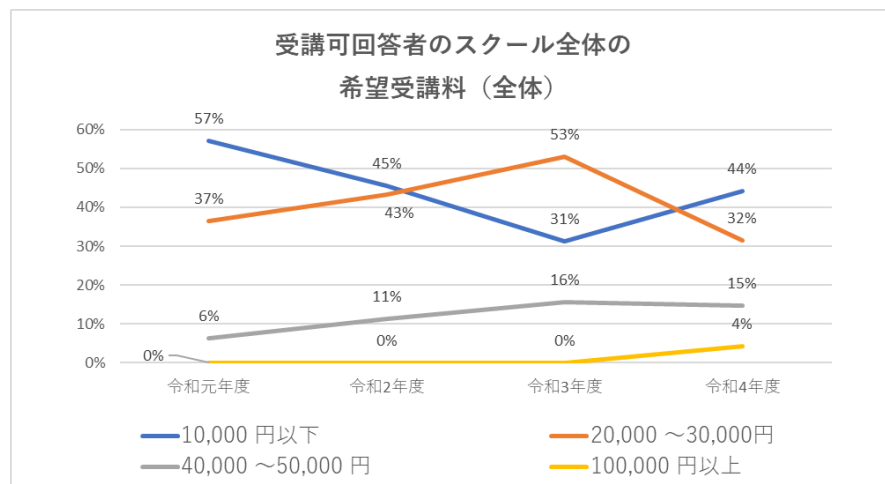
「有料でも受講する」と回答した受講生に対し、1講義あたりの受講料をいくらだと負担できるかと尋ねたところ、昨年度より希望受講料は低下した。昨年度までは自治体からの支出として考えていたものの、個人での支払いを想定していると思われる。



図表 37 「有料でも受講する」と回答した受講生の1講義あたりの希望受講料

(6-3) 「有料でも受講する」と回答した受講生のスクール全体の希望受講料

「有料でも受講する」と回答した受講生のプログラム全体の受講料についても尋ねたところ、受講生の予算は減少しているのがわかる。上の設問と同じく、個人での支払いを想定しているのではないかと想像できる。



図表 38 「有料でも受講する」と回答した受講生のスクール全体の希望受講料

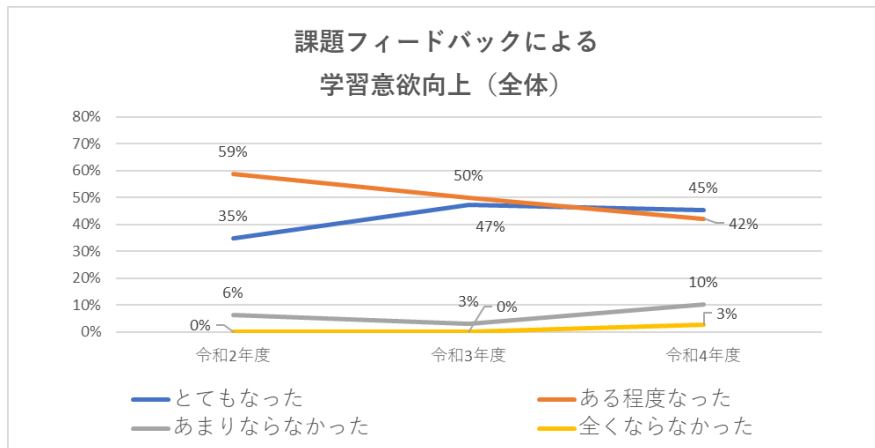
⑦ 課題のフィードバック

今年度より各クールに提示した課題について、講師からのフィードバック

を行う仕組みを導入した。その結果、受講生の学習意欲等、受講する上でどれほど効果があったについて質問を設けた。

(7-1) 課題フィードバックによる学習意欲向上

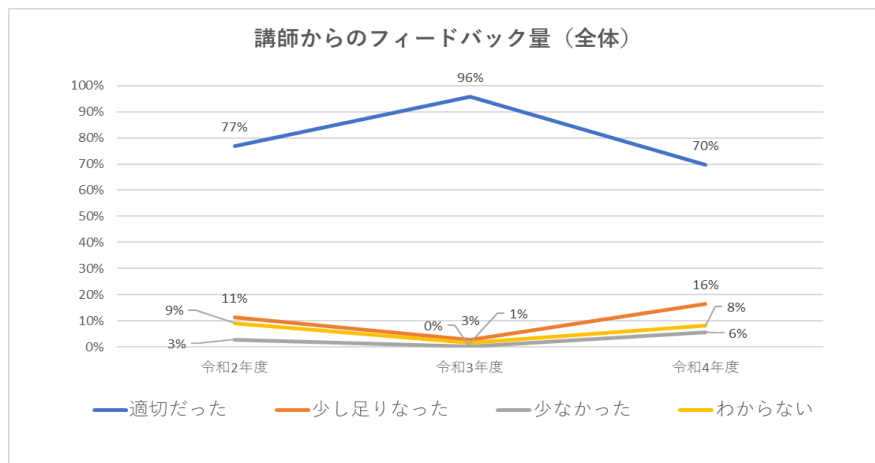
課題のフィードバックを実施した結果、受講生の学習意欲向上にどれだけ寄与したかについては、9割程の受講生が「とてもなった」「ある程度なった」と回答した。意見としては、「個別のレポートにコメントをもらえて嬉しかった」「アドバイスがとても的確だった」という意見がある一方、一方向的だったため「対話型が良かった」などの意見もあった。



図表 39 課題フィードバックによる学習意欲向上

(7-2) 講師からのフィードバック量

受講人数が多く、昨年度のような複数回のフィードバックが難しかったため、フィードバックの量としては満足度が少し減少した。フィードバック量を増やす場合、受講生数の縮小、フィードバック機会の増加を増やす必要がある。



図表 40 講師からのフィードバック量

⑧ 個別講義の感想

個別講義については、受講生のためにあった講義のアンケートをとったところ、満遍なくためになったとの回答があった。「エリアマネジメント」「リノベーションまちづくり」「アーバニスト」「ウォークアブル」「シビックプライド」といったキーワードを使って印象に残った講義の感想を書いている受講生が多く見受けられた。

多岐にわたるテーマの講義を受け、「まちづくりに関しては、都市計画行政が中心として考えていたが、その他関連分野や違う立場からもまちに対して変容を起こすことができるという点は、実例も踏まえて参考になった」「あらゆる業務においてアーバニストとしての姿勢を持って取り組んでいきたい」「まちづくりを実現するには、地域だけが若しくは行政だけが頑張っても実現しないという当たり前のことを、再認識しました。まちのキーパーソンを見つけることが重要であることも。都市居住者・利用者の視点での理想(妄想?)も含みながら取り組んでいきたい」との意見があり、非常に前向きな感想が目立った。

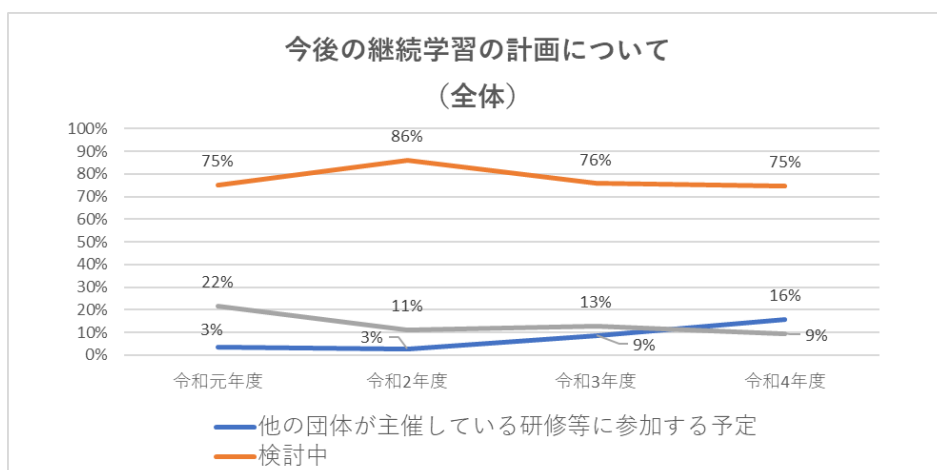
#### ⑨ 最終課題提出後の感想

最終課題については、事前課題の振り返りと自身の行動変容の変化を文章化して提出するものとした。「最終課題を提出したから終わりではなく、アーバニストとしてのスタートだと感じている。今後も自分が住む自治体だけでなく、他の自治体の活動等、視野を広く持っていきたい。」「達成感を得られた。簡潔に 1000 字程度にまとめるには、相応の文章力が求められると感じた。」「自らの行動変容の目標やそのための取組みを、自ら言葉にすることによって責任感のようなものが生まれたと感じる。」というように、レポートに真剣に取り組み、達成感があった、意識が芽生えたというコメントが多く見られた。一方、A4 で 1 ページにまとめるのは難しかったという意見も少々見られた。

#### ⑩ 今後の継続学習

本プログラムをきっかけとした今後の学習についての継続に関する意識についての質問を設けた。

今後の継続学習については、「他の団体が主催している研修等に参加する予定」との回答が昨年度に対して増加しており、過年度を含めこれまでに最も高い割合となった。スクールでの満足度向上がこのような形で修了後も何かしらの形で継続学習を考えていることが推察される。



図表 41 今後の継続学習の計画について

⑪ 目標設定の次年度以降の活かし方について

業務での企画に活かせそうという回答も多かった一方、今年度の受講生からはプライベートで取り組んでいるまちの活動にも活かせそうという回答も目立った。目指す方向性が明確になった、実際に今取り組んでいる業務に役立っているとの回答もあった。

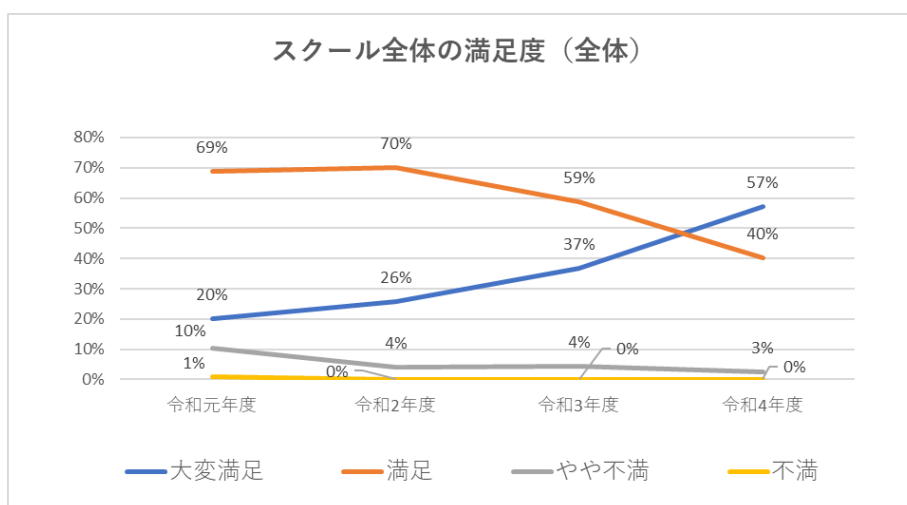
⑫ スクール全体の満足度・要望等

最後に、スクール全体の満足度及び要望等についての質問を設けた。

(1 2-1) スクール全体の満足度

スクール全体の満足度については、今年度については受講生の9割以上が「大変満足」「満足」と回答しており例年と同様の傾向が示されたが、中でも、「大変満足」が過年度と比較し増加している。意見として、「これまで受講したセミナーの中で、最高に良かった。職務にも、ライフワークにもつながるインプットが得られ、更に人のつながりも得られた」「この続きとなるスクールが欲しいと思った。」「非常に濃厚で勉強になった」「受講前は果たして本当に意味のあるスクールなのか?という疑念があったが、実際に受講してみると、どの講師の方のお話も参考となり、何よりもレポートを書くという行為を通じて自分自身と向き合い、考え方や立ち位置を見つめ直し、整理することができた」というものがあった。

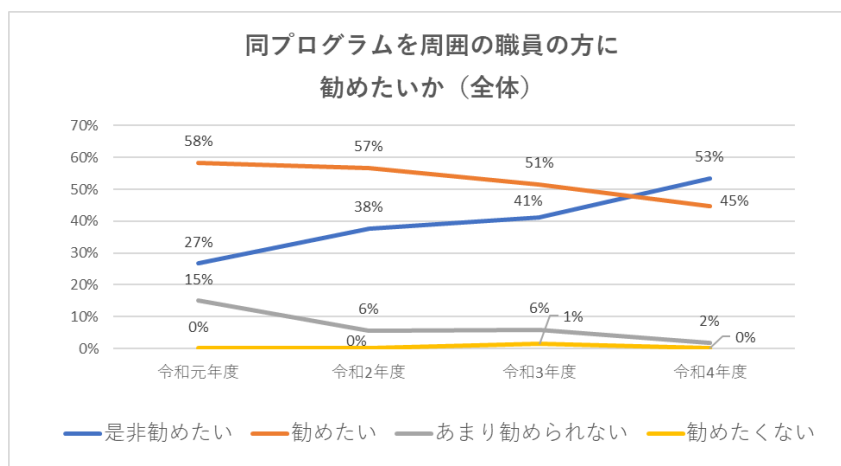
また、「来年度は管理職にも受講を進めたいので、受講者募集を行う際に、管理職が受講するようなきっかけを示してほしい」という意見もあった。



図表 42 スクール全体の満足度

#### (1 2-2) 周囲の職員の方への同プログラムの推薦

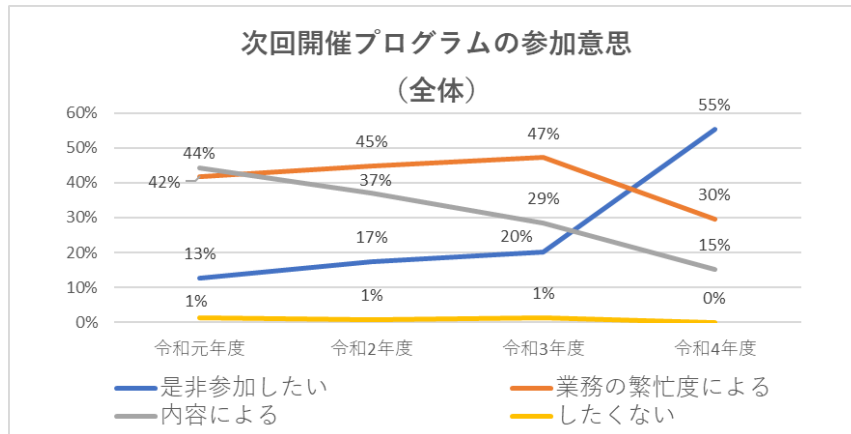
来年度以降に同様のスクールプログラムが開催された場合は、周囲の職員の方に勧めたいかという質問に対してはほとんどの受講生が「是非勧めたい」「勧めたい」と回答している。中でも、「是非勧めたい」が過年度と比較し増加していることから上記（i）と同様に、本プログラムの受講生への満足度が段階的に高まっていることが示唆される。



図表 43 周囲の職員の方への同プログラムの推薦

#### (1 2-3) 次回開催プログラムの参加意思

一方で、次回同様のスクールプログラムが開催された場合の参加意思については、是非参加したいと回答している受講生が増加している。もし継続受講を可能にする場合、講義数を増やす他にフィードバックを増やす、交流機会を増やすなどの方法が考えられる。



図表 44 次回開催プログラムの参加意思

(1 2-4) その他スクール全体の要望等

その他スクール全体の要望等については、「スクールを知らない職員が多いため、もっと露出を増やしてほしい」「動画や資料の共有を課内で許可して欲しかった」「少し広げすぎた内容についてはスリム化してほしい」「視聴可能期間を伸ばしてほしい」などがあった。



## 第4章 官民学連携による新たな都市空間創造に向けた人材育成方策の検討

### (1) 本プログラム全体の満足度

・プログラム全体の満足度については、イ) モデル事業の運営に対する満足度、ロ) モデル事業の企画に対する満足度について記載し、それらを踏まえ分析を行う。

・イ) モデル事業の運営に対する満足度については、3章⑤より過年度同様に運営そのものに対する大きな不満はなく、受講生の満足度が高かったものと考えられる。昨年度まではグループリーダーがグループメンバーの進捗確認や事務局からの連絡伝達を主導して行っていたところ、今回は受講生各個人に情報の受授を委ねることとなり、アンケートのコメントからは一部の受講生は事務局からの連絡内容の理解が不十分だった点が見受けられた。

・3章④の開催時期についての問いからは開催時期については概ね適切だったとの意見が多く、交流会については受講生同士の交流促進のため早めの時期に開催してほしいとのコメントがあった。

・ロ) モデル事業の企画に対する満足度については、講義の内容については大変満足だったとの回答が多く、受講生の期待以上だったとの回答が昨年度より増加した。なお、課題へのフィードバックについては講師とのコミュニケーションの機会が少なかったため、コメント内容については満足度が高かったものの双方向的なフィードバックの機会が欲しかったという意見も挙げられた。

・回答からもプログラム全体の満足度は高かったものと考えられる。次年度同様のスクールがあればぜひ参加したいという回答も増加した。

### (2) モデル事業の育成効果・学習到達度

・アンケート結果3章(2)②、③より、学習プログラムの範囲・難易度については適切だったとの回答が増加した。昨年度より大幅に課題量が減少したため、取り組みやすかったことが推測される。

・過年度受講生からは課題の量が通常業務に支障をきたす環境下であったという意見が一部見受けられたが、今年度は課題量が適切であるという回答が増加した。主催者側から提示した課題については一通り対応した結果、得られるものが大きかったという意見も多数確認されたことから、過年度同様に育成効果が高かったものと考えられる。

### (3) 受講生間におけるコミュニケーション活性化への影響（自由記述から）

・今年度はグループ参加ではなかったため、受講生間のコミュニケーションは学習管理システムの受講生掲示板と、交流会が主なコミュニケーションの場となった。数時間であるが交流会では活発に意見が交換され、受講生同士の交流が積極的に行

われた。そして交流会以降の受講生による有志の SNS コミュニティの立ち上げにより、現在も継続的に交流が実施されていて、各自が取り組んでいる活動のシェアが行われている。交流会については参加者からは非常に満足度が高いことが窺えた。

- ・今年度は交流会が 2 月に行われたため、顔合わせという形でもっと早くに実施してほしかったというコメントも寄せられた。

#### (4) 継続学習に対するモチベーション

- ・今年度は各個人の事前課題に対して講師からのフィードバックコメントを送った。昨年度までは個人課題に対しては総評という形で全体に対する所感を送付する形で実施していたので、よりパーソナルなフィードバックを受講生が受け取った形である。3章⑦の結果より、講師からのフィードバックに関しては概ね学習意欲が向上したという回答が得られた。
- ・スクール終了後、自主的な学習を継続したいと回答した受講生は昨年度と比べて増加した。今年度のスクールがアーバニストとしての自覚の芽生えをサポートし、モチベーションにつなげることができたことが窺える。また、3章(12-3)からはもしスクールが来年度も実施する場合、継続受講したいと回答した受講生が増加していることから、継続学習への意識の高まりが見られた。

#### (5) 行動変容に関する意識の変化

- ・今年度のゴールの一つの視点として、受講生自身の行動変容に関する意識の変化に着目することを掲げ、育成プログラムを設計した。具体的には、事前課題および最終課題にて「行動変容」をテーマとしたレポート作成を課した。事前課題では「都市生活者としてのこれからの自身の行動変容に関する目標」の設定、最終課題においては、「事前に設定した自身の行動変容の目標に対する意識の変化」についての振り返りについて対応を求めた。

- ・最終課題については、自分のまちを知る・関わるための行動変容に対する意識づけとして、以下のカテゴリーに関する言及が多く見られた。実際に言及のあった内容を行動変容の事例として記載する。

##### ① 自分のまちのコミュニティ活動・交流への参画

例 1 従前の行動： まちが変わることで課題が解決されるのを待っている

最終課題後： 保育園の父母会や文化復興を目指す企業とのミーティング等、自身が自然体で参加可能なコミュニティを探索し参加

##### ② SNS などを通じたまちの情報発信

例 2 従前の行動： まちに飛び出してみる機会を創らず新たな発見に出会わない

最終課題後： 魅力と考えるアジサイ手水舎の写真を投稿し大反響を得る

##### ③ 講演会・イベント・セミナー等の自主企画

例 3 従前の行動： 商店街役員会で企画は多数挙がるが、実行者・主体がない

最終課題後： 地域に関わりたい大学生を商店街へ紹介、ワークショップ開催

④ 地元協力者・民間プレイヤーの発掘・関係構築

例4：従前の行動：家から弁当を持参する

最終課題後：地元商店との交流を深めるため、昼食を商店で購入・飲食

・以上より、本スクールにおいては Web 講義、課題レポートならびに交流会を通じて、受講生の行動変容に関する意識改革を促すことができたと考えられる。

・今後の課題としては、これらの行動変容が引き続き継続されていくかどうか、または更に発展していくかどうかについてモニターすることが重要と考えられ、その対応方法についての検討が必要である。

(6) 参加方式の比較（グループ参加と個人参加）

・過年度のグループ単位での受講とは異なり、今年度から個人単位を対象とした参加形式とした。参加方式を大きく変更したことにより、それによる企画立案・運営面において様々な特性（メリット/デメリットなど）が確認された。

・上記は、どのような参加ルールを設定するかにも依存するため、過年度と今年度のスクール企画・運営における特性を比較し整理した。詳細は以下のとおりである。

	項目	個人参加(令和4年度)	グループ参加(令和元年～3年)
企画立案(受講生側)	参加登録	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人的意思決定により参加が可能となり、報告義務なども発生しないので自由度が高く、参加登録のハードルが低い（気楽に申し込みできる、自由なスケジュールで受講できる、所属課と方針を合わせる必要がないので自由な意見を記入・発言できるなど）</li> <li>交流会等のイベント参加も上記と同様</li> </ul>	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部長などの管理職級も課題を提出しなくてはいけないため、主体的に関わってもらえるため、意思決定者の意識改革が図れる</li> </ul> <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受講グループ組成について一定の調整が発生する。</li> <li>グループ組成が不可な場合は受講ができない</li> </ul>
	講義視聴	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人のペースで視聴対応が可能</li> </ul> <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視聴率については課題対応同様、個人の裁量に依存する形となるため低下する傾向となる</li> </ul>	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ全員の視聴を連帯責任として設定した場合、視聴率は高くなる</li> </ul> <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人の時間や機器で視聴が認められない可能性もある</li> </ul>

企画立案（受講生側）	課題対応	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人のペースで作成対応が可能</li> <li>・ 自身が取り組んでいる仕事とは関係ない活動についても記載・発言しやすい</li> </ul> <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人での裁量に依存する形となるため、レポートの品質に一定のバラつきがしやすい</li> <li>・ 提出についても自己責任となるため、提出率がグループ参加と比較し低下する傾向となる</li> </ul>	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ課題については、グループの総意による作成のため、一定の品質が担保されやすい</li> <li>・ 課題提出に連帯責任が関わってくるため、提出率が高くなる</li> </ul> <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人課題については左記のデメリットと同様の傾向がある</li> </ul>
	コミュニケーション	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受講生個人の積極的かつ自発的な行動に起因した交流・イベント参加を促せる</li> <li>・ 交流会を通じて気の合う仲間を見つけられ、所属に気兼ねなく自由に交流できる</li> </ul>	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受講生間のみならず、受講グループ間におけるコミュニケーションが促せ、部署内等での関係性強化が図られる</li> </ul>
	育成效果	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意識の高い人が所属課に合わせることなく個人のスキルアップに取り組める</li> </ul> <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ モチベーションの持続は本人の性格に依存する</li> <li>・ 強制力があまり働かないため、ドロップアウトしやすい</li> <li>・ 本人の意識が高まっても、周りが無関心の場合業務に活かしづらい</li> </ul>	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設定した目標が実際の業務、プロジェクトにつながりやすい</li> <li>・ 講義視聴や課題対応に強制力が働くため、平準化された育成效果が見込める</li> </ul> <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属課に合わせる必要があるため、個人のペースに合わせたスキルアップ図れない</li> </ul>
	運営（事務局側）	<p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受講生一人一人の対応が求められるため、事務局業務が煩雑になりやすい</li> </ul>	<p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各グループに窓口担当を設定することで受講生対応の業務が削減され、効率化が図れる</li> </ul>

図表 45 参加方式の比較

## 第5部 全体総括

### 《講義配信》

- 人材育成モデル事業「都市を創生する公務員アーバニストスクール」では、過年度と同様に市町村をはじめとする地方公共団体及び国の行政機関の幹部職員等を対象に、民間主導・行政支援のまちづくりを行うことのできる公務員の養成を目指すプログラムの設計とした。講義については、過年度より継続している「公共空間を活かしたまちづくり」のテーマに加え、今年度については「循環型経済」「多文化共生」「福祉・子育て」など領域を拡大したうえで、官民連携による取組を進める民間有識者及び地方自治体職員等を講師として招聘し、eラーニング形式の講義動画の制作及び配信を実施した。
- 講義内容や視聴環境については過年度と同様に受講生の期待に応えるものを提供でき、これまで提供してきた過去3年と同様に、今年度についてもWeb学習環境が効果的であったと結論づけることができる。
- 今年度は受講生の繁忙度を考慮した開催期間・課題量とし、一方で講義のバリエーションを豊富な形で提供するプログラム設計としたため、講義全体として「期待以上だった」という評価が過年度よりも高かった。

### 《課題提出》

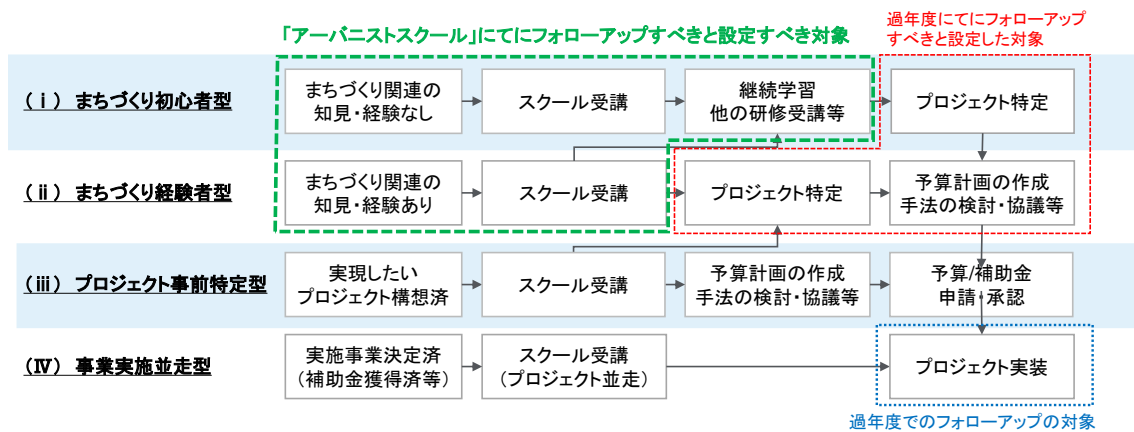
- 昨年とは異なり個人参加としたため、受講前及び最終クールにて個人課題の提出を求めた。また、事前課題については、昨年度と同様にスクール講師によるフィードバックの仕組みを導入したことにより、課題テーマについてより深い理解を促すことができた。
- 提出された事前課題については、昨年度と同様に今回も6名の講師にてフィードバックを対応した。今年度については、これまでになかった受講生一人一人に対するフィードバックの制度を導入したことから、アンケートの結果から満足度が大変高く、かつより一層のフォローアップを望む意見が見受けられた。
- 事前課題および最終課題については、過年度と同様に動画配信Webサイトにて共有を図り受講生間の相互学習を図った。昨年度との比較においては、一部の受講生に対し強い効果を示した結果となったため、各自自治体の情報共有により各受講チームにとっての参考事例取得やモチベーション向上に大いに役立ったものと考えられる。

## 《交流会》

- 人材育成モデル事業の構成は、講義動画視聴を通じた Web 学習によるインプット、課題提出によるアウトプットを基本としつつ、期中の参加型プログラムとして交流会を開催した。
- 今年度は新型コロナウイルス感染拡大が緩一部緩和されたことを受け、現地での対面を主とした形式に加え、オンラインでも配信対応とするハイブリッドでの交流会を開催した。
- 交流会参加の募集開始から短期間で定員を満たしてしまい、開催当日も16自治体よりPR発表を頂いたことから、非常に大盛況であった。このような交流の場は受講生間にとって大変貴重な機会であると考えられたため、来年度以降の開催時期・頻度については再考の余地があると考えられる。

## 《継続学習・行動変容》

- 人材育成モデル事業の実施目的は民間主導・行政支援のまちづくりを行うことのできる公務員の養成に加え、今年度からは都市生活者から視点でまちづくりにどのようにアプローチをしていくかの知見の蓄積・感受性の向上を組み入れ、本プログラムでは配信講義、課題、そして各受講生において実現可能な行動変容目標の提示を通じたまちづくり人材の育成を試みた。
- 今後の課題としては、過年度から提示しているように本プログラムにより形成されたまちづくりに対する意識改革・モチベーションをどのように継続させ、自主的な行動を促すのか、また行動変容目標についての着実な実行に向けて具体的な行動を促すようなフォローアップの仕掛け及び仕組みが必要と考えられる。特に今年度の「アーバニストスクール」においては、都市生活者からの視点での行動変容を促すというコンセプトから、修了後のフォローアップやモニタリングについてもこれらのポイントを反映したターゲット設定、並びに効果的な対応が求められる。
- まちづくりに対するモチベーション及び学習の継続に関しては、プログラム終了後も受講生間での交流・相互学習を促せるプラットフォームの組成が効果的であると考えられる。本年度については、受講生による有志の SNS コミュニティの立ち上げられたことから、これらを活用した受講生の行動に関するモニタリングが有効であると考えられる。



図表 46 アーバニストスクールにおける人材育成のフォローアップ・モニタリング対象

### 《グループと個人受講》

- 今年度より新たな取組みとして、個人単位での受講を条件として人材育成事業を運営した。第4部第4章(6)にて、グループ受講と個人受講との比較・整理を行ったが、企画・運営上の相違点としては、受講生個人の参加ハードルや受講ペースなど、個人の裁量に関連する要因に違いが見られるのみで、その他についてはスクール運営側(事務局)がどのような受講条件・ルールを設けるかに依存するという点が示唆された。
- 次年度以降は企画段階の時点で、受講生から提供されるべき情報(課題提出数やアンケート回答率の向上など)、および受講生の修了目標数などのKPIを設定した上でプログラムを設計することにより、本スクールの人材育成効果を更に高めることが可能と考えられる。

## 添付資料一覧

### 第2部

資料2-3-1 人材育成モデル事業の募集要項等

### 第3部

資料3-2-1 各課題の詳細等

資料3-2-2 課題フィードバック対応講師の紹介

資料3-3-1 交流会の式次第等

### 第4部

資料4-3-1 令和4年度 スクール受講後アンケート項目



## 令和4年度「都市を創生する公務員アーバニストスクール」

### 募集要領

#### 1. 目的

これからの時代に魅力ある持続的な都市を創生していくため、既存ストックや人のつながり・コミュニティなどの地域に存する資本を最大限活かしながら、エリア価値の向上や人間中心の居心地が良く豊かなまちの形成に官民連携により取り組んでいくことが重要です。

本スクールでは、都市行政の専門性と都市生活者の視点をあわせ持つアーバニストとしての素養を高め、当事者として主体的に都市・地域経営や官民連携によるまちづくりに対峙していく公務員の育成を目指します。

#### 2. 受講の流れ

- ① 本スクールでは、民間実践者及び地方自治体職員、大学教員等の講師によるeラーニング形式の講義（計2クール）及び受講生の交流会を行います。（別紙1参照）  
配信講義は、これからの時代に求められるアーバニストとしての素養やまちづくりの基礎的知識等を学ぶ「必修講義」と、様々なパターンの実践事例から官民連携のプロセス等を学ぶ「選択講義」から構成されています。なお、選択講義の詳細な受講条件等については受講生決定通知と併せてご連絡いたします。
- ② 受講生には事前課題レポート、最終課題レポートを提出していただきます。課題については、講師から講評を行います。（なお、課題レポートと講評については、受講者内で共有します。）

#### 3. スケジュール

7月19日(火)	募集開始 お申込内容確認後、1週間以内に受講生決定通知と事前課題をご連絡いたします
8月12日(金)正午	申込締切
8月26日(金)	事前課題レポートの提出締切
8月22日(月)	追加募集開始
9月5日(月)正午	追加申込締切
9月5日(月)	第1クール配信（順次配信）

各講義の受講後にアンケートを回答していただきます  
第2クール視聴には必修講義の視聴が必須です

9月9日(金) 追加募集分 事前課題レポートの提出締切  
11月7日(月) 第2クール配信・最終課題通知  
~~1月6日(金)~~ 3月17日(金) 配信終了  
1月13日(金) 最終課題締切  
1月下旬から2月頃 交流会(※別途ご案内いたします)

#### 4. 課題について(別紙2参照)

- 本スクールでは、事前課題として、各受講生が生活する都市・地域における課題と都市生活者としてのこれからの自身の行動変容に関する目標を設定し、レポートを提出いただきます。
- 講義を通して得られる知見や講師陣によるアドバイスを踏まえ、レポートのブラッシュアップを行っていただきます。
- 全講義終了後に最終レポートを提出するとともに、受講事前に設定頂いた自身の行動変容の目標に対する自己評価をしていただきます。

#### 5. 参加要件

以下の全てを満たす個人であること。

(1) 受講者が、市区町村、都道府県、国の行政機関、公社の職員

(2) 受講者が、以下のすべての要件を満たす。

・新しい知識を吸収し、前向きにまちの課題を解決しようとする意欲があること。

・本スクール全カリキュラム(課題レポートの作成を含む)への参加が可能であること。

・各講義及びスクール終了後のアンケートについて回答可能であること。

※ 講義の受講にはパソコンもしくはタブレット・スマートフォン端末及びインターネットに接続できる環境が必要です。

※ 参加申込書により受講可否を審査させていただきます。

※ 定員は ~~200~~400名程度を想定しております。

#### 6. 参加費

無料

## 7. 申込方法

以下に記載の URL もしくは QR コードより申込フォームへご入力下さい。

(締切： ~~8月12日(金)~~ 9月5日(月) 正午)。

<https://forms.gle/dqyxP7gov4JSQgS9A>



なお、事務局からの受講生決定通知のメールをもって受付完了となります。

受講生決定通知メールが申込フォーム入力から1週間以内に届かない場合は、[info@toshisozo.jp](mailto:info@toshisozo.jp) までお問い合わせ下さい。

## 8. 問合せ先

ご不明点がございましたら、以下までご連絡ください。

<講義内容・参加要件>

国土交通省都市局まちづくり推進課 山田・椎名・諏訪

電話：03-5253-8111

(内線：32514、32562、32575)

<その他のご質問(メールのみ)>

「都市を創生する公務員アーバニストスクール」事務局

デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社 板倉・井上

メール：info@toshisozo.jp

令和4年8月吉日

## 都市を創生する公務員アーバニストスクール

### 事前課題

課題：「まち」の課題と自身の目標

各受講生が生活する都市・地域における課題（生活する都市・地域の課題となる場所等の写真を必ず添付）と、都市生活者としてのこれからの自身の行動変容に関する目標について設定してください。

課題形式：個人でのレポート作成

字数：2,000字以上（図表を含む）

提出期限：8月26日（金）～9月16日（金）

~~—（※ 課題提出期間は8月12日（金）～8月26日（金）—~~

ファイル：MSワードにて作成（※ 提出はPDF形式にて送付）

提出先：都市を創生する公務員アーバニストスクール事務局  
課題提出システムにアップロード（別途ご案内）

- ※ 提出する事前課題レポートのファイル名には「ID\_自治体名（または課題のテーマとしたエリア名）」を、必ず記載してください。
- ~~※ 課題提出方法（課題提出システム）の詳細については、8月12日（金）までに事務局よりご案内させていただきます。~~
- ※ 今回ご提出いただいた事前課題については、本スクールのウェブサイト（受講生のみ閲覧可能）にて匿名での掲載を予定しております。

令和4年12月5日

# 都市を創生する公務員アーバニストスクール

## 最終課題

テーマ：「まち」の課題のまとめと自身の自己分析

講義を通して得られた知見や事前課題への講師陣によるアドバイスを踏まえ、まちの課題と、今のご自身のアーバニストとしての目標設定を簡潔にまとめてください。また、講義やフィードバックを通して、最初に設定した行動目標に変化は生まれましたか。変化や目標がより明確になった内容について、自己評価を行ってください。

レポート作成にあたり、写真・図表等は、必要に応じて添付してください。

課題形式：個人でのレポート作成

文字数：1,000字程度（A4サイズ1枚・図表等を含む）

提出期限：令和5年2月17日（金）【厳守】

ファイル：MSワードにて作成（※提出はPDF形式にて送付）

提出先：都市を創生する公務員アーバニストスクール事務局

課題提出（Moodle）システムにアップロード

※ 提出する事前課題レポートのファイル名には「ID\_所属先名」を、必ず記載してください。また、自治体職員の方は「〇〇県〇〇市」の様に、都道府県名から記載してください。

※ レポートには氏名を記載しないでください。

※ 令和5年2月17日（金）までにご提出いただいた方の最終課題レポートについては、動画配信 Web サイトでの共有を予定しております。

資料3-2-2 課題フィードバック対応講師の紹介

講師名	小島 博仁 (第1クール講義担当)	白鳥 健志 (第2クール講義担当)	町田 誠 (第2クール講義担当)	栗本光太郎 (第2クール講義担当)	渡邊 浩司 (第1クール講義担当)	乃口 智栄 (第1クール講義担当)
所属	・一般社団法人せんだいリノベーションまちづくり実行委員会(SRM) 代表理事 ・UR都市機構東北まちづくり支援事務所参与	・前札幌駅前通まちづくり㈱代表取締役社長 ・㈱ノーザンクロスまちづくりアドバイザー	・一般財団法人公園財団常務理事 ・横浜市立大学大学院客員教授 ・国土交通省PPPサポーター ・イベント学会理事	・豊田市市長公室特命担当副主幹	・一般財団法人民間都市開発推進機構常務理事 ・元国土交通省大臣官房技術審議官(都市局担当) ・日本大学客員教授 ・公益社団法人日本都市計画学会副会長	・国土交通省都市局まちづくり推進課官民連携推進室企画専門官
専門分野	・都市計画 ・公民連携	・都市計画 ・1級建築士 ・市民参加のまちづくり	・都市公園緑地・都市環境、景観・歴史まちづくり ・公民連携、公有財産利活用 ・イベント、コンテンツ制作	・まちづくり(やさし専門)	・都市計画・都市整備 ・ウォーカーなまちづくり ・公民連携	・都市計画 ・人口減少時代のまちづくり
経歴・実績等	・2016年3月まで仙台市役所に勤務 ・2016年6月に民間主体のSRMを設立し、公民連携まちづくりに取り組む	札幌市を経て2010年から設立間もない前記まちづくり会社に。公共施設(札幌駅前通地下広場等)を活用し、収益をまちづくり活動に充てるなどのエリアマネジメントに取り組む。2020年退任。	・1982年建設省入省、2018年国交省公園緑地・景観課長で退職 ・東京都公園緑地部長 ・さいたま市技監 ・2005日本国際博覧会(愛知万博)、2000国際園芸・造園博覧会(ジャパンフローラ2000) ・国営平城宮跡国営公園事業化 ・2017都市緑地法・都市公園法等改正 ・明治記念大磯邸園事業化	・1985年豊田市役所入庁。都市計画課長、経営戦略担当副参事、都市整備部長等を経て現職。あそべるとよたプロジェクトでは、ペDESTリアンデッキの一部を道路区域から除外して益踊り大会を催すなど、公費負担一切なしの民間手弁当方式で公共空間からまちをなかにワクワク感を生み出す取り組みをしている。	・1985年旧建設省に入省。 ・2014年4月から2016年3月まで、豊島区副区長として、南池袋公園整備やグリーン大通りの利活用をはじめとした池袋駅周辺のまちづくりに携わる。 ・2016年国土交通省に戻り、都市局街路交通施設課長、市街地整備課長、大臣官房技術審議官を経て2022年6月退職。この間、ウォーカーなまちづくりの推進に取り組む。 ・2022年10月より現職	・2022年4月より神戸市都市局都市計画課から出向し現職。直近では、コミュニティバス等の地域に密着した公共交通の維持・導入支援、人口減少や高齢化などの課題を抱える郊外の住宅団地の再生など、地域住民との協働のまちづくりを推進。
受講生に向けて一言	公民連携による新たなまちづくりを意欲的に取り組んでいる行政マンが多いことを昨年度のスクールで実感しました。しかし、庁内が同じ方向を向いていない悩みも聞きました。いっしょに解決していきましょう！	まちづくりは、市民、民間事業者、行政が協働して取り組むべきもの。行政職員は積極的にまちに出て、市民とともに将来(あす)のまちづくりを担って欲しい。	やれない理由を探す前にやると決めて、リスクを抱えてやり抜く力を身につける。制度やルールを変えられるのは公務員だけであることを心の底から理解すること。社会や地域・都市生活の価値向上を最上位の目的物として先入観を棄てて考えること。	旧来型の土木屋から10年ほど前に思考回路が正常化し、つかって貰うための空間づくりのため、徹底した規制緩和や自己本位の既得権益者と対峙することをライフワークにしてみました。みなさんも同じ苦勞があると思いますが全市民方位のまちづくりを進めてまいります！	世の中の変化を敏感に感じ取って役所を変えていこうという公務員がいないと、幸せな未来は実現できません。様々な壁にぶち当たるとは思いますが、あきらめず、役所の内外の仲間を見つけてつながりながら、できることから粘り強く続けていきましょう。	まちの課題解決や価値の向上には、最前線で活動するプレイヤーの力が不可欠ですが、それを後押しする行政の力も重要です。受講生のみなさんは、まちづくりに携わる様々なプレイヤーの視点を理解し・後押しできる行政マンを目指してください！

## 令和 4 年度 「都市を創生する公務員アーバニストスクール」 交流会

令和 5 年 2 月 3 日（金） 15:00～18:00

1. 開会挨拶（15：00～）
2. 受講生 PR 発表 ①（9 名）（15:05～15:35）
3. グループディスカッション（15:35～16:10）
  - 自己紹介
  - 設定した行動変容目標と達成状況
  - スクール受講を通して考える今後の具体アクション

【休憩 16:10～16:20】

4. グループディスカッション発表（16:20～16:40）
  - グループ発表：今後の具体アクションの全体共有
5. 受講生 PR 発表 ②（9 名）（16:40～17:10）
6. 講師講評（17:10～17:50）
  - 講師からのコメント（25 分）

講師：豊田市市長公室 特命担当副主幹 栗本 光太郎 氏  
札幌駅前通まちづくり株式会社 元代表取締役社長 白鳥 健志 氏  
元四條畷市副市長 林 小野 有理 氏  
国土交通省都市局まちづくり推進課官民連携推進室長 山田 大輔 氏  
（講師名 50 音順）

内容：受講生の発表内容・課題への所感、目指してほしいアーバニスト像について
  - 講師への質疑・応答（15 分）
7. 修了条件・スクール褒賞についてのご案内（17:50～）
8. 閉会挨拶（17：55～）

## 資料4-3-1 令和4年度 スクール受講後アンケート項目



フィードバック

### 令和4年度受講後アンケートのお願い

フィードバック 設定 テンプレート 分析 回答 さらに▼

完了: 閲覧する

やるべきこと: フィードバックを送信する

終了予定: 2023年 03月 10日(金曜日) 23:59

この度は令和4年度「都市を創生する公務員アーバニストスクール」にご参加頂き、誠にありがとうございました。今後の参考にさせて頂きたく、下記のアンケートにご協力をお願いいたします。なお、本アンケートについては、今後の「都市を創生する公務員アーバニストスクール」を検討する際の参考と致します。

設問の中に最終課題についてのものもありますので、最終課題を完成させてからご記載ください。

提出期限は2月24日（金）まででしたが、3月10日まで延長いたします。

アンケートは以下、全5部構成となっております。所要時間は15～20分となります。最後のアンケートとなりますので、是非ご協力を程何卒宜しくお願い申し上げます。

- 第1部 スクール運営
- 第2部 個別講義
- 第3部 課題フォローアップ
- 第4部 最終課題・今後の見通し
- 第5部 総括

最初に、ご所属先・ご氏名をご入力下さい。

ご所属先を部署名までご入力ください。❗

ご氏名をご入力ください。❗

#### <第1部 スクール運営>

1-1. スクール受講前の事前準備・エントリー手続き等に対する感想をお聞かせください。

1-1-(1) 本スクールの受講にあたり、エントリー入力・手続きには時間・手間を要しましたか。❗

大変要した  要した  あまり要しなかった  全く要しなかった

1-1-(2) 上記にてスクール受講前の事前準備・エントリー手続き等で手間がかかった理由についてあれば、ご意見をお聞かせください。



1-2. スクール学習プログラム内容に対する感想をお聞かせください。

1-2-(1) 本スクールプログラムの学習内容の範囲は、期待通りのものでしたか。❗  
 期待以上だった  期待通りだった  少し期待とは違った  期待外れだった

1-2-(2) 本スクールプログラムの学習内容の難易度は、適切でしたか。❗  
 簡単だった  適切だった  少し難しかった  難しかった

1-2-(3) 本スクールプログラムの学習の量（講義数）は、適切でしたか。❗  
 少なかった  適切だった  少し多かった  とても多かった

1-2-(4) 本スクールプログラムの事前課題・最終課題の難易度は、適切でしたか。❗  
 簡単だった  適切だった  少し難しかった  難しかった

1-2-(5) 本スクールプログラムの課題の量は、適切でしたか。❗  
 少なかった  適切だった  少し多かった  とても多かった

1-2-(6) 本スクールプログラムの課題の締切期限は、適切でしたか。❗  
 締切まで余裕があった  適切だった  短かった

1-2-(7) 学習内容は日常的な業務等において役に立ちましたか❗  
 役に立たと強く感じた  
 役に立たと感じた  
 役に立たとあまり感じなかった  
 役に立たとまったく感じなかった

1-2-(8) 本スクールプログラムの事前課題をWebにて共有したことにより、他の受講者の課題から自分に有用な情報を得ることができましたか。❗  
 有用な情報を多く得ることができた  
 有用な情報を得ることができた  
 有用な情報を得ることがあまりできなかった  
 有用な情報を得ることがまったくできなかった

1-2-(9) 上記の(1)~(8)の回答の選択理由について、ご意見がある方はご記入ください。

1-3. スクール学習プログラムにおけるご自身の学習環境に対する感想をお聞かせください。

1-3-(1) 本スクールプログラムのWeb配信サイトの利用環境（使いやすさ等）はいかがでしたか。❗  
 使いやすかった  普通  少し使いにくかった  とても使いにくかった

1-3-(2) 本スクールプログラムの配信講義の視聴環境（使いやすさ・見やすさ・文字の大きさ・音質等）はいかがでしたか。❗  
 良かった  普通  許容できる範囲だった  不満だった

1-3-(3) 本スクールプログラムの講義の視聴に、スマートフォンを用いましたか。❗  
 主要の視聴媒体とした  少し用いた  まったく用いなかった

1-3-(4) 本スクールプログラムの配信講義のチャプターごとの動画時間（1チャプター：約15分）はいかがでしたか。❗  
 短かった  適切だった  長かった

1-3-(5) 上記の(1)~(4)の回答の選択理由について、ご意見がある方はご記入ください。

1-4. スクール学習プログラムの開催時期等に対する感想をお聞かせください。

1-4-(1) 本スクールプログラムの開催日数（約6ヶ月間）は適切でしたか。❗

短かった  適切だった  長い

1-4-(2) 本スクールプログラムの開催時期（令和4年9月～令和5年2月まで）は適切でしたか。❗

良い時期であった  適切だった  時期が悪かった

1-4-(3) 本スクール交流会の開催時期（令和5年2月3日（金）での開催）は適切でしたか。不参加だった方も記載をお願い致します。❗

良い時期であった  適切だった  時期が悪かった

1-4-(4) 上記の(1)~(3)の回答の選択理由について、ご意見がある方はご記入ください。

1-5. スクールの主催側（事務局）の対応に関する感想をお聞かせください。

1-5-(1) 主催者（事務局）による配信動画・課題の告知・案内の提示時期は適切でしたか。❗

早かった  適切だった  遅かった

1-5-(2) 主催者（事務局）による配信動画・課題の告知・案内の内容はわかりやすかったですか。❗

大変わかりやすかった  わかりやすかった  少し分かりにくかった  分かりにくかった

1-5-(3) 主催者（事務局）は本プログラム運営中、受講生からの各種の要望に対して適切な対処をしていましたか。❗

大変よかった  良かった  少し不満を感じた  とても不満だった

1-5-(4) 上記の(1)~(3)の回答の選択理由について、ご意見がある方はご記入ください。

1-6. スクールの受講費用負担に関する意見をお聞かせください。

1-6-(1) 今回スクールを有料で実施するとした場合、受講されますか❗

受講する  受講しない

1-6-(2) 上記(1)で1.受講すると回答された方にお尋ねします。1講義あたりの受講について、一人あたりどの程度の受講料が適切と考えられますか。

- 500円以下  
 1,000~2,000円  
 3,000~5,000円  
 6,000円~9,000円  
 10,000円以上

1-6-(3) 上記(1)で①受講すると回答された方にお尋ねします。全プログラムの受講について、一人あたりどの程度の受講料が適切と考えられますか。

- 10,000 円以下
- 20,000円～30,000円
- 40,000円～50,000円
- 60,000円～90,000円
- 100,000円以上

<第2部 個別講義>

2-1. ためになった講義について順に3つお聞きかせ下さい。

2-1-(1) 1番目にためになった講義をご選択ください。❗

2-1-(2) 2番目にためになった講義をご選択ください。❗

2-1-(3) 3番目にためになった講義をご選択ください。❗

2-2. 今後の業務で、講義の内容で活かそうな点があれば具体的にお聞かせください。

2-3. その他講義等に関するご感想、ご要望、希望するプログラム等ございましたらお聞かせください。

<第3部 課題フォローアップ>

各クールにて提出頂きました事前課題に対する講師からのフィードバックについての感想をお聞かせください。

3-1-(1) 講師から受けたフィードバックは、自身の学習への参考やモチベーションとなりましたか。❗

- とてもなった
- ある程度なった
- あまりならなかった
- 全くならなかった

3-1-(2) 講師からの総評（文字数や頻度等）は適切でしたか。❗

- 適切だった
- 少し足りなかった
- 少なかった
- わからない

3-1-(3) (1)(2)の回答を選択した理由について、ご意見がある方はお聞かせください。

#### <第4部 最終課題・今後の見通し>

4-1. 最終課題の提出を終えた感想をお聞かせください。❗

4-2-(1) 今後の継続学習についてお聞かせください。❗

- 他の団体が主催している研修等に参加する予定  
 検討中  
 継続学習の予定はない

4-2-(2) 上記質問で参加する予定と選択した方は、研修等の名称・概要について記載してください。

4-3. 今回の最終課題の目標は次年度にどのように活かそうですか。❗

#### <第5部 総括>

5-1. 最後にスクール全体のご感想についてお聞かせください。

5-1-(1) 「令和4年度都市を創生する公務員アーバニストスクール」の満足度についてお聞かせください。❗

- 大変満足  満足  やや不満  不満

5-1-(2) また同様のスクールプログラムが開催された場合は、参加したいと思いますか。❗

- 是非参加したい  業務の繁忙度による  内容による  参加したくない

5-1-(3) 次回、同様のスクールプログラムが開催された場合は、周囲の職員の方に勧めたいと思いますか。❗

- 是非勧めたい  勧めたい  あまり勧められない  勧めたくない

5-2. 「令和4年度都市を創生する公務員公務員アーバニストスクール」に関するご感想、ご要望、希望するプログラム等ございましたらお聞かせください。

アンケートは以上です。

今回のご経験が受講生皆様のまちづくり推進の一助となりましたら幸いです。

アンケートを完了するには以下「あなたの回答を送信する」ボタンを押して下さい。

官民学連携による新たな都市空間創造に向けた  
人材育成に係る調査・検討業務  
報告書

令和5年3月

発 連 電 F	行 絡 A	先 X	国土交通省都市局 まちづくり推進課 〒100-8918 東京都千代田区霞ヶ関 2-1-3 03-5253-8111（代表） 03-5253-1589
------------------	-------------	--------	--

調査受託機関	デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社 東京都千代田区丸の内3-2-3 二重橋ビルディング
--------	---